

第9回 社会抑うつ度調査 2025年4月分析結果

精神的健康、不公平感、信頼するメディア情報、
緊急相談・救助方法・災害情報ダイヤル認知、
およびワード認知度に関する調査

目次

1. 調査概要

1.1. 本調査の目的	3
1.2. 調査方法	4
1.3. 調査内容	5
1.4. 回答者の特性	6

2. 結果

2.1. 精神的健康の推移	17
2.2. 不公平感の推移	25
2.3. その他の調査項目	31
2.3.1. 信頼するメディア情報	32
2.3.2. 緊急・相談ダイヤル認知	39
2.3.3. 救助方法・災害情報入手方法認知	46
2.3.4. ワード認知度	51

3. 引用文献	67
---------------	----

4. 付録	70
-------------	----

1. 調査概要

1.1. 本調査の目的

調査概要

結果

「社会抑うつ度調査」では、抑うつ、不安感、孤独感、人生満足度などを指標として、**人々の精神的健康の状態とその推移を把握するため**に定期的な測定を実施している。また、本調査では精神的健康に関連すると考えられる要因（性格特性や社会情勢など）を明らかにし、有効な対策や提言を行う目的で、さまざまな指標や属性項目を測定している。

第9回目となる今回の調査では、定期的に測定している「**精神的健康**」と「**不公平感**」に加え、各種メディアに対する信用度、人命救急方法および災害情報入手に関する認知度、社会問題に関わるワードの認知度など、社会的な情勢を反映した項目を「**その他の調査項目**」として設定し、ウェブ調査を実施した。

1.2. 調査方法

調査概要

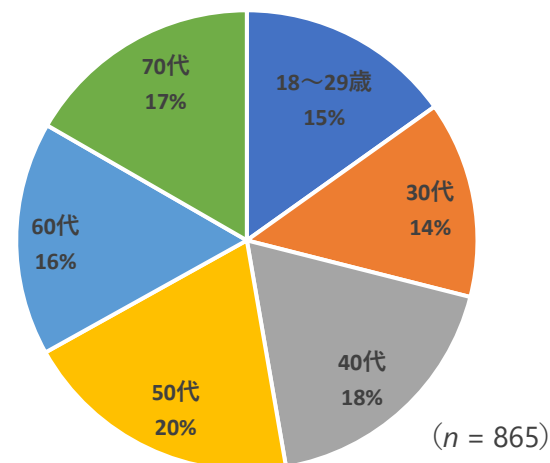
結果

- 調査方法：WEBアンケート
- 調査実施日：2025年4月10日（水）～2025年4月15日（火）
- 調査実施会社：株式会社ネオマーケティング
- 調査対象者：同会社のモニター登録者のうち、18～79歳の男女1000名。
全国の地域・性別・年齢の人口分布に合わせて調査対象者の割付を行った。調査に際し、サティスファイス検出項目を2問設け、いずれの質問にも指示通り回答した人のみを有効回答とした。
- 有効回答数：**865名**

※2020年4月から2021年11月までは毎月、2021年11月から2022年11月までは3か月に1回、株式会社ネオマーケティング「アイリサーチ」において調査を実施。
2023年9月および2024年9月ではセルフ型アンケートツール「Freeasy」において調査を実施。

回答者の性別・年齢

- 男性**431名**（49.8%）、女性**434名**（50.2%）
- 平均**51.6歳**（SD = 16.3）



1.3. 調査内容（調査項目一覧）

調査概要

結果

1. 人々の心理 ⇒詳細p. 18, 26

- (1) 精神的健康 ...抑うつ／不安感／孤独感／人生満足度
- (2) 不公平感 ...社会から公平に扱われていないと思う経験、社会に対する不公平感。

2. その他の調査項目 ⇒詳細p. 32, 39, 46, 51

- (1) メディア情報信頼
- (2) 緊急・相談ダイヤル認知
- (3) 救助方法・災害情報入手方法認知
- (4) ワード認知度

3. 基本属性 ⇒詳細p. 7~15

性別・年齢・就労状況・婚姻状況・同居家族・主観的健康状態・最終学歴・昨年と比べた暮らし向き・世帯収入・主観的社会階層・性格特性（ビッグファイブ¹⁾）など

¹⁾ 人の性格を5つの特性（外向性・協調性・誠実性・神経症傾向・開放性）によって表す理論、およびそれによって捉えられる性格のこと。

1.4. 回答者の特性

1.4. 回答者の特性：就業状態

調査概要

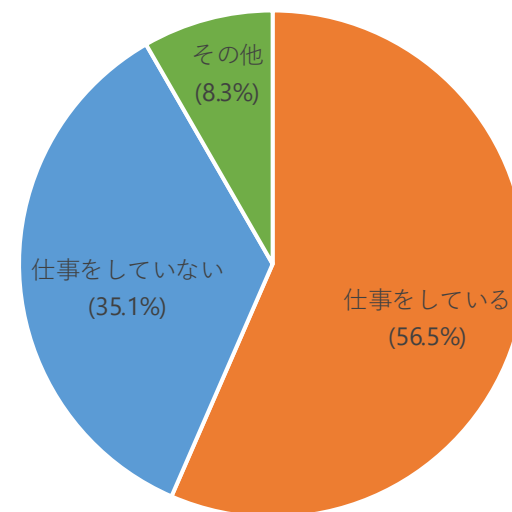
結果

(1) 就業状態

「あなたは現在どのような就業状態にありますか。仕事にはパートやアルバイトを含めてお答えください。」

今回の調査参加者の就業状態は下記の通りであった。

- 「仕事をしている¹⁾」 56.5% (489名)
- 「仕事をしていない²⁾」 35.1% (304名)
- 「その他」 8.3% (72名)



回答者の就業状態
(n = 865)

¹⁾ 家事や通学の傍らのアルバイト等を含む。

²⁾ 育児休業等、一時的な休業を含む。

1.4. 回答者の特性：就業形態

調査概要

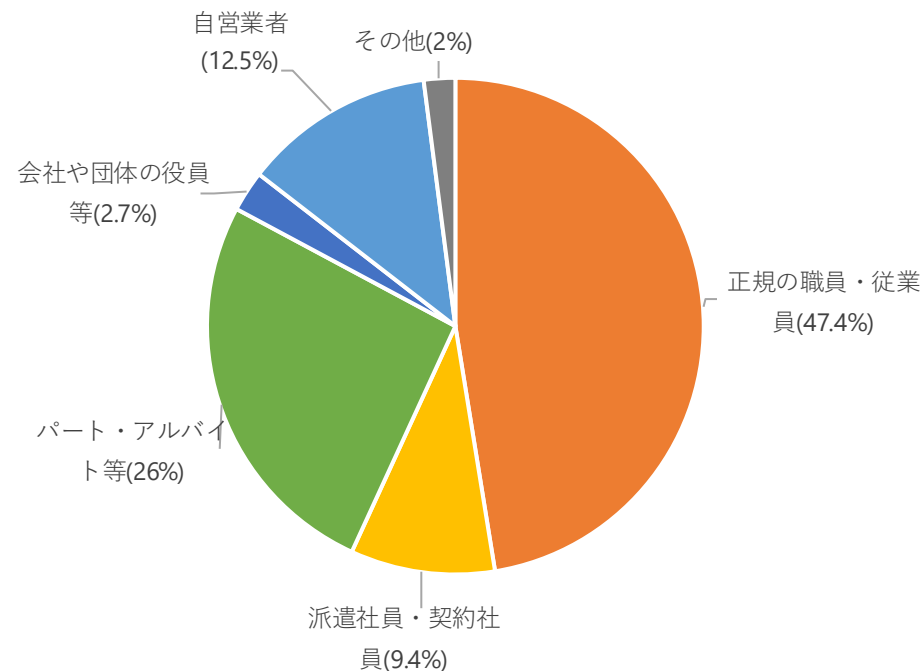
結果

(2) 就業形態¹⁾

「あなたは、現在どのような就業形態でお仕事をしていますか。勤め先での一時休業や産前・産後休暇、育児休業、介護休業などで仕事を一時的に休んでいる方は、休業・休暇の前の就業形態をお答えください。」

今回の調査参加者においては、
下記の就業形態が多く見られた。

- 「正規の職員・従業員（47.4%）」
- 「パート・アルバイト等（26.0%）」
- 「自営業者（12.5%）」



回答者の就業形態
(n = 489)

¹⁾ 「就業状態」の質問において「仕事をしている」に該当する回答をした場合においてのみ尋ねた。

1.4. 回答者の特性：婚姻状況

調査概要

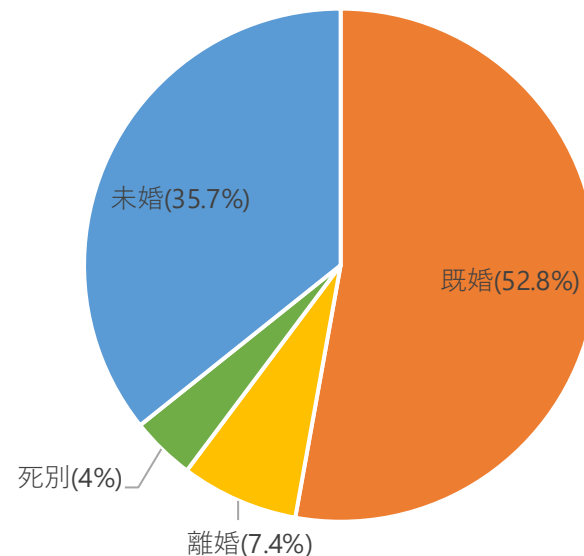
結果

(3) 婚姻状況

「あなたは現在結婚していらっしゃいますか。」

今回の調査参加者の婚姻状況は下記の通りであった。

- 「現在結婚している」 **52.8%** (457名)
- 「離婚した」 **7.4%** (64名)
- 「死別した」 **4.0%** (35名)
- 「結婚したことはない」 **35.7%** (309名)



回答者の婚姻状況
(n = 865)

1.4. 回答者の特性：同居者

調査概要

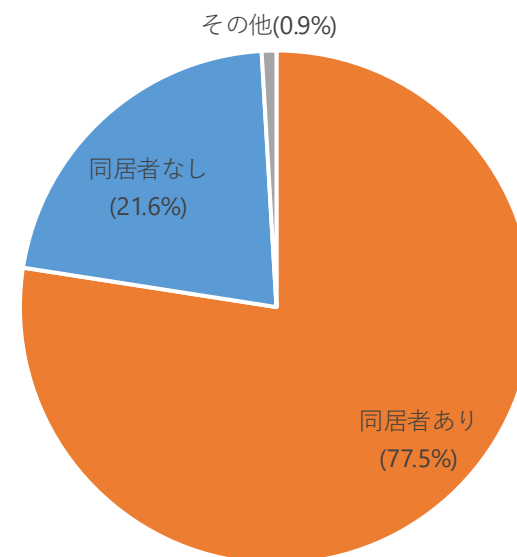
結果

(4) 同居者

「現在あなたと一緒に暮らしている方を以下の中からすべて選んでください。二世帯住宅など、同じ敷地内で別世帯と暮らしている場合も含めます。また、「配偶者」には、事実婚も含みます。」

今回の調査参加者の同居者は下記の通りであった。

- 「同居者あり¹⁾」 **77.5%** (670名)
- 「同居者なし²⁾」 **21.6%** (187名)
- 「その他」 **0.9%** (8名)



回答者の同居者
(*n* = 865)

¹⁾ 配偶者や子ども、親族を含む。

²⁾ ペットのみとの同居も含む。

1.4. 回答者の特性：最終学歴

調査概要

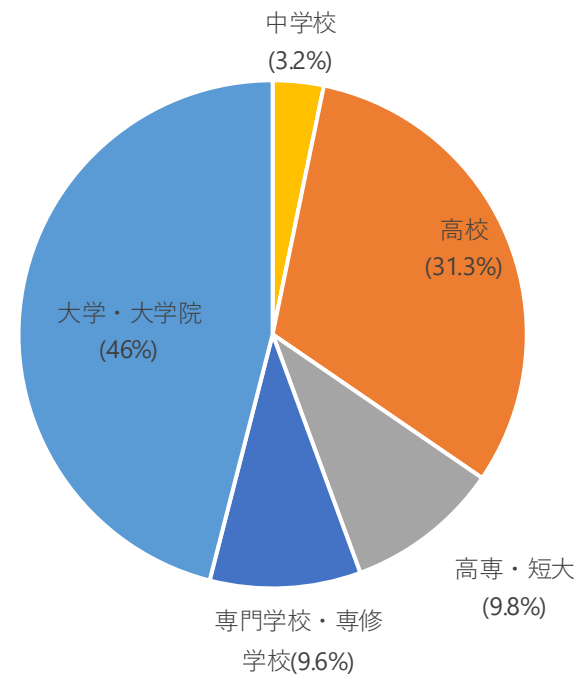
結果

(5) 最終学歴

「あなたが最後に卒業した（または現在通学している）学校は以下のどれにあたりますか。」

今回の調査参加者の最終学歴は下記の通りであった。

- 「中学／高校」 **34.6%** (299名)
- 「高専／短大／専門学校／専修学校」
..... **19.4%** (168名)
- 「大学・大学院」 **46.0%** (398名)



回答者の最終学歴
(n = 865)

1.4. 回答者の特性：主観的健康

調査概要

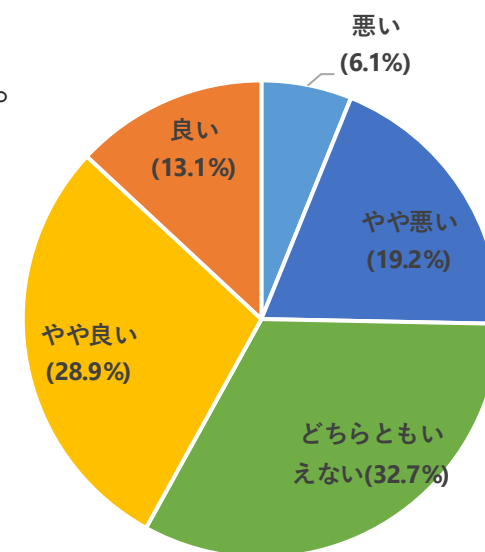
結果

(6) 主観的健康

「あなたの現在の健康状態は、いかがですか」

今回の調査参加者の主観的健康状態は下記の通りであった。

- 「良い／やや良い」 42.0% (363名)
- 「悪い／やや悪い」 25.3% (283名)
- 「どちらともいえない」 32.7% (283名)



回答者の主観的健康
(n = 865)

1.4. 回答者の特性：暮らし向きの変化

調査概要

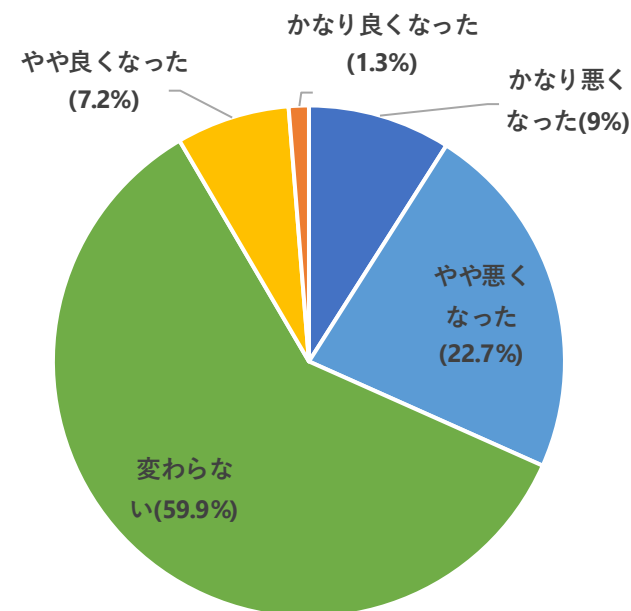
結果

(7) 1年前と比較した現在の暮らし向き

「現在のご自身の暮らし向きは、1年前と比べてどうなりましたか。以下から当てはまるものをお選びください。」

今回の調査参加者の1年前と比較した暮らし向きの変化は下記の通りであった。

- 「かなり悪くなった」 9.0% (78名)
- 「やや悪くなった」 22.7% (196名)
- 「変わらない」 59.9% (518名)
- 「やや良くなった」 7.2% (62名)
- 「かなり良くなった」 1.3% (11名)



回答者の暮らし向きの変化
(昨年と比較) (n = 865)

1.4. 回答者の特性：社会階層

調査概要

結果

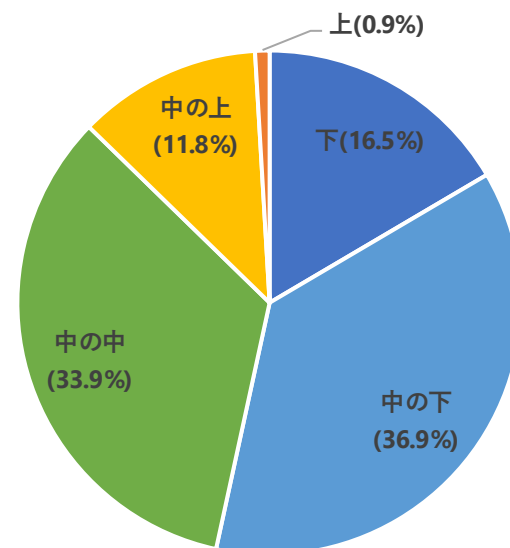
(8) 主観的な社会階層

「かりに現在の日本の社会全体を、以下の5つの層に分けるとすれば、あなた自身は、どれに入りますか。」

今回の調査参加者の

主観的な社会階層は下記の通りであった。

- 「上」 0.9% (8名)
- 「中の上」 11.8% (102名)
- 「中の中」 33.9% (293名)
- 「中の下」 36.9% (319名)
- 「下」 11.8% (143名)



主観的な社会階層
(n = 865)

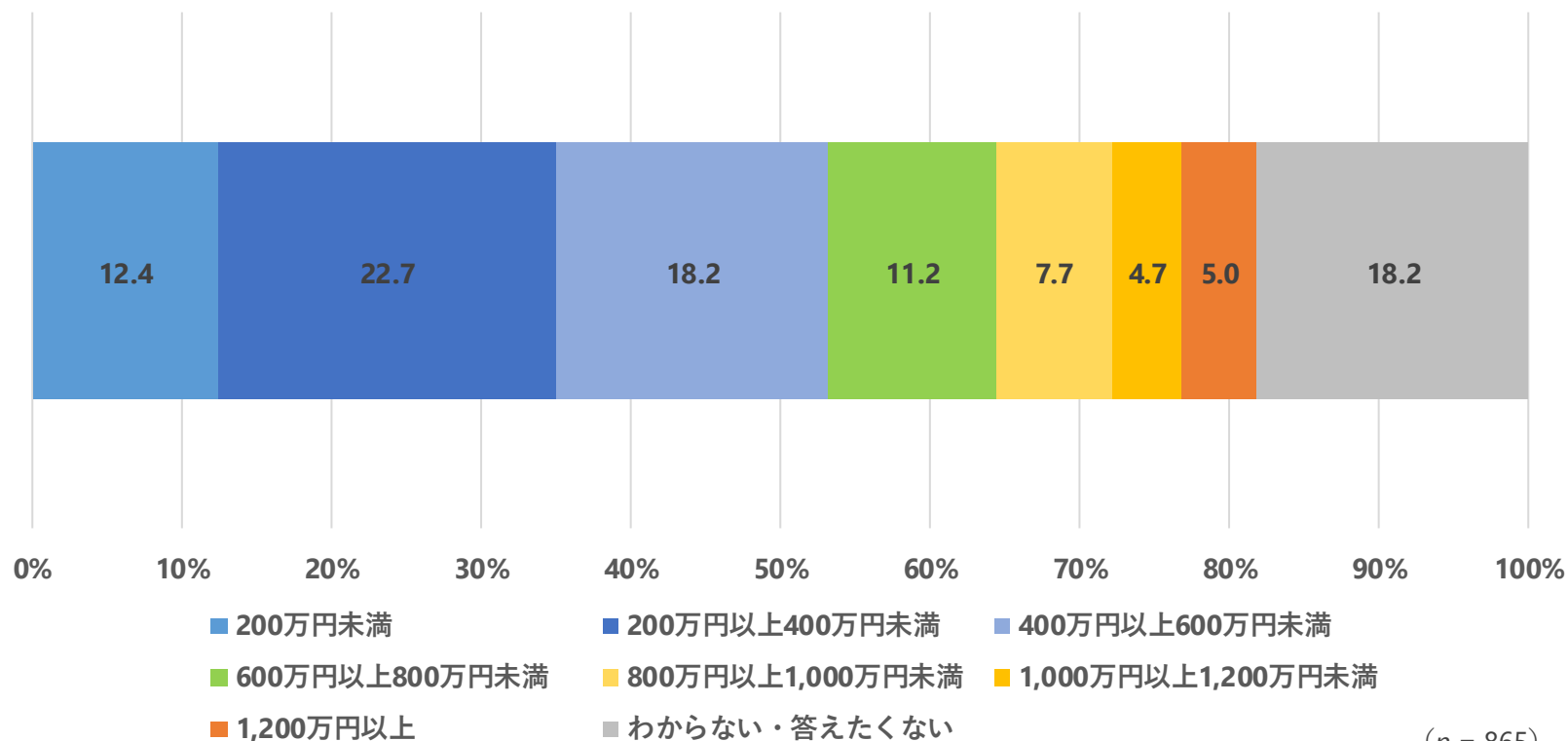
1.4. 回答者の特性：昨年の家庭収入

調査概要

結果

(9) 昨年の家庭収入

「昨年（2024年1月～12月）1年間のご家庭の収入はご家族全部あわせると、およそいくらくらいになりますか。ボーナスや臨時収入を含め、お答えください。税金を差し引く前の金額でお答えください。」



2. 結果

2.1. 精神的健康の推移

2.1. 精神的健康：項目の詳細

調査概要

結果

〈精神的健康の測定指標〉

- ・ 抑うつ ...PHQ-9 (村松, 2014)¹⁾ を使用
 - ・ 不安障害 ...GAD-7 (村松, 2014)²⁾ を使用
 - ・ 孤独感 ... 3 項目孤独感尺度 (Igarashi, 2019)³⁾ を使用
 - ・ 人生満足度 ...SWLS (角野, 1995)⁴⁾ を使用
- ⇒ 症状評価が中等度 (10点) 以上の人の割合
ならびに合計値を指標とした
- ⇒ 平均値を指標とした

☆2022年11月以前のデータについては、社会調査支援機構チキラボの第1回～第7回「社会抑うつ度調査」報告書に基づいている（参照：<https://chikilab.theletter.jp/>）。

☆本調査は定期調査であるが、下記の期間ごとの調査会社等の調査方法が異なる。そのため、一概に結果を比較することはできないが、調査対象者の性別・年齢・居住地等の割付条件は同一の方法で設定しており、人々の精神的健康の長期的な変遷をみることはある程度可能であると考えられる。

調査期間①：2020年4月から2021年2月

調査期間②：2021年6月から2023年4月

調査期間③：2023年9月から2024年9月

調査期間④：2025年4月以降

¹⁾ PHQ尺度 (Patient Health Questionnaire; Spitzer et al., 1999) の日本語版から大うつ病性障害に関わる項目を抽出した尺度。

²⁾ PHQ尺度から不安障害に関わる質問項目を抽出して作成した尺度GAD-7 (Generalized Anxiety Disorder-7; Spitzer et al., 2006) の日本語版。

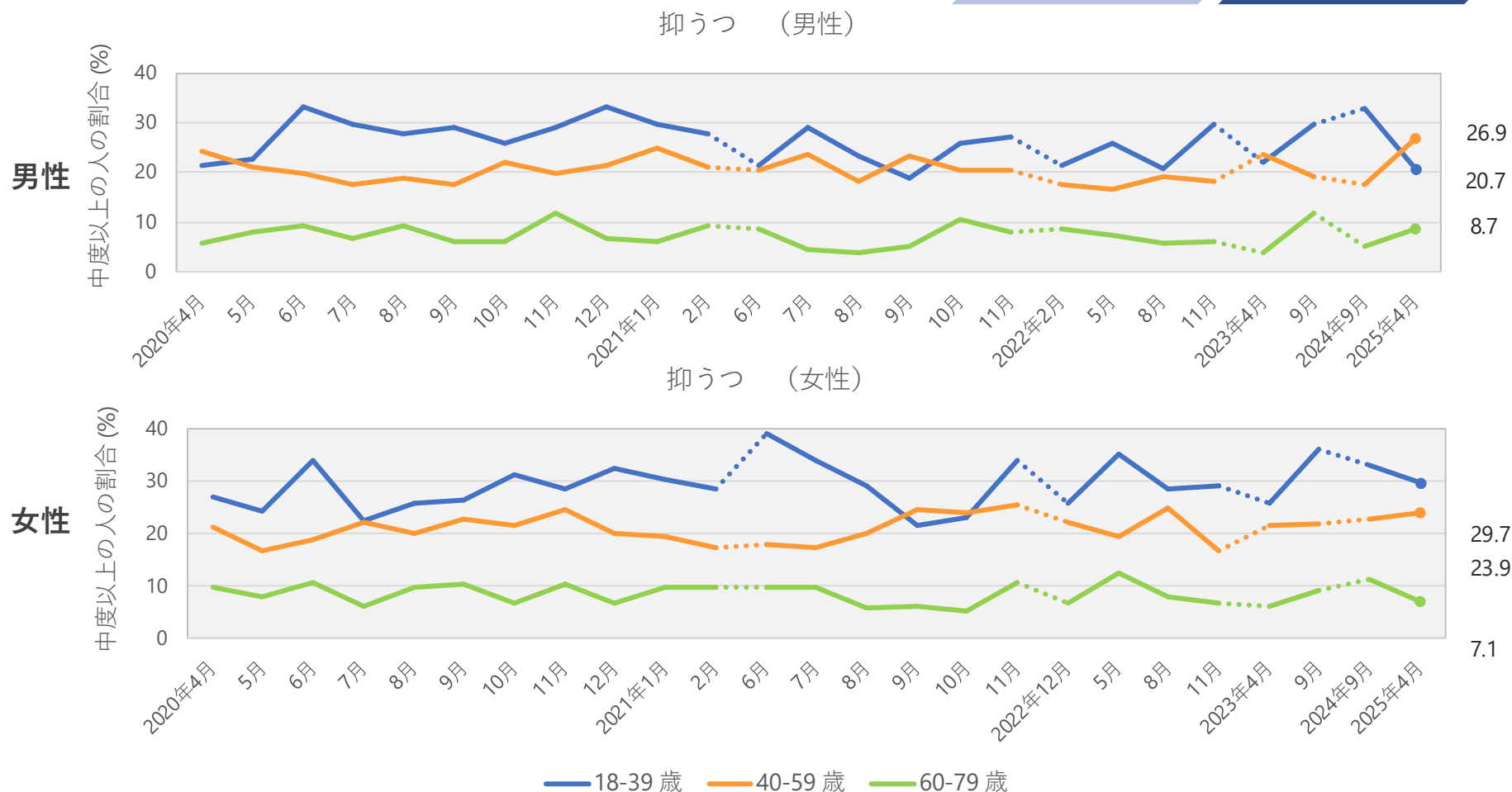
³⁾ TIL尺度 (Three-Item Loneliness Scale; Hughes et al., 2004) の日本語版。

⁴⁾ SWLS尺度 (Satisfaction With Life Scale; Diener et al. 1985) の日本語版 (角野, 1995) から5項目使用。

2.1. 精神的健康：抑うつ推移

調査概要

結果



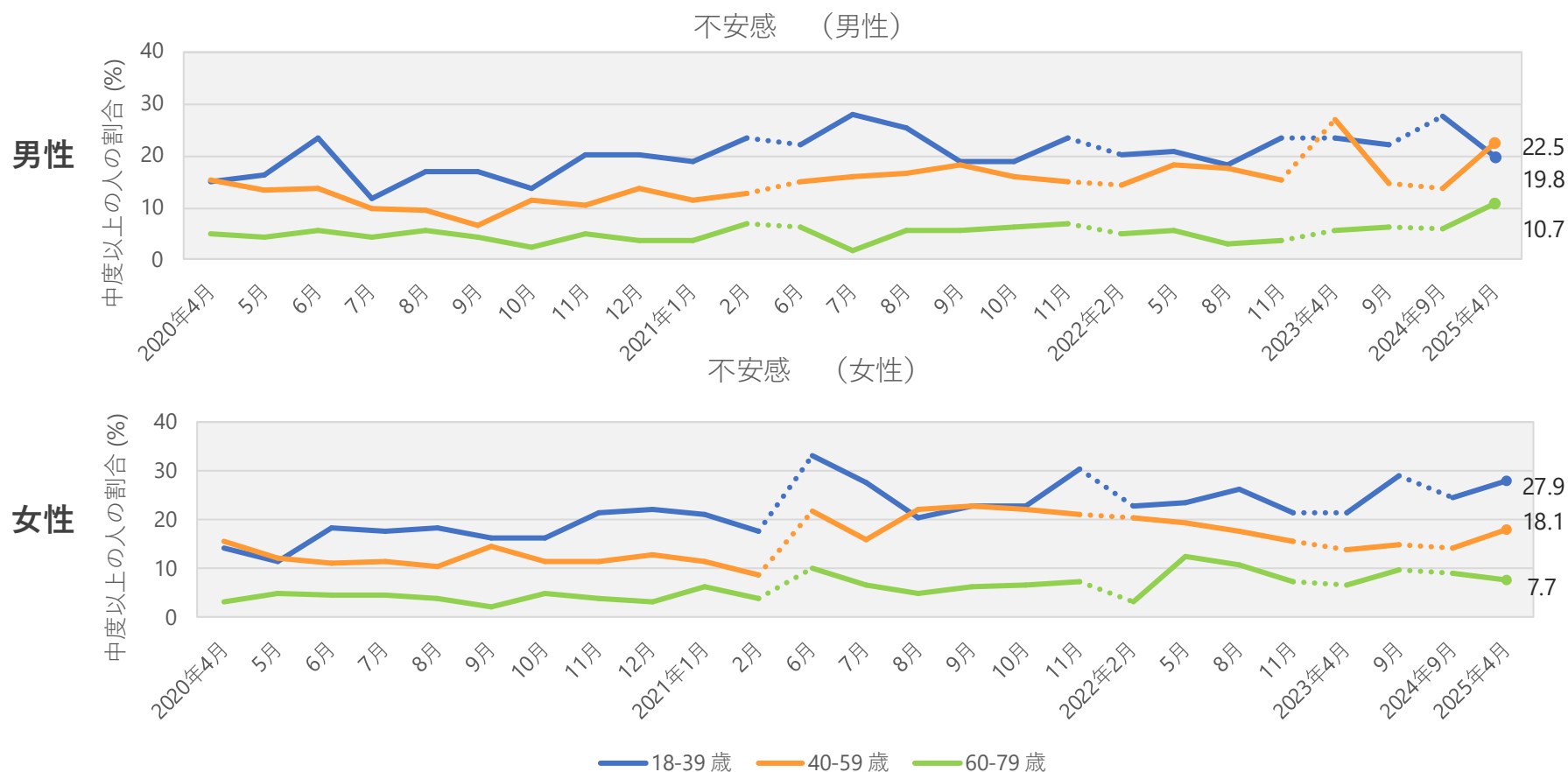
- 抑うつスコア全体 ($M = 5.24, SD = 6.17$) については年齢による有意な主効果が認められ、**高齢層（60-79歳）の抑うつは若年層（18-39歳）および中年層（40-59歳）よりも有意に低い**ことが示された。また、この効果は性別との相互作用効果が有意であり、女性においては年齢が高いほど抑うつが低い一方、男性においては中年層の抑うつが最も高かった。^{a)}

^{a)} 性別と年齢を説明変数とする2要因分散分析の結果。

2.1. 精神的健康：不安感の推移

調査概要

結果



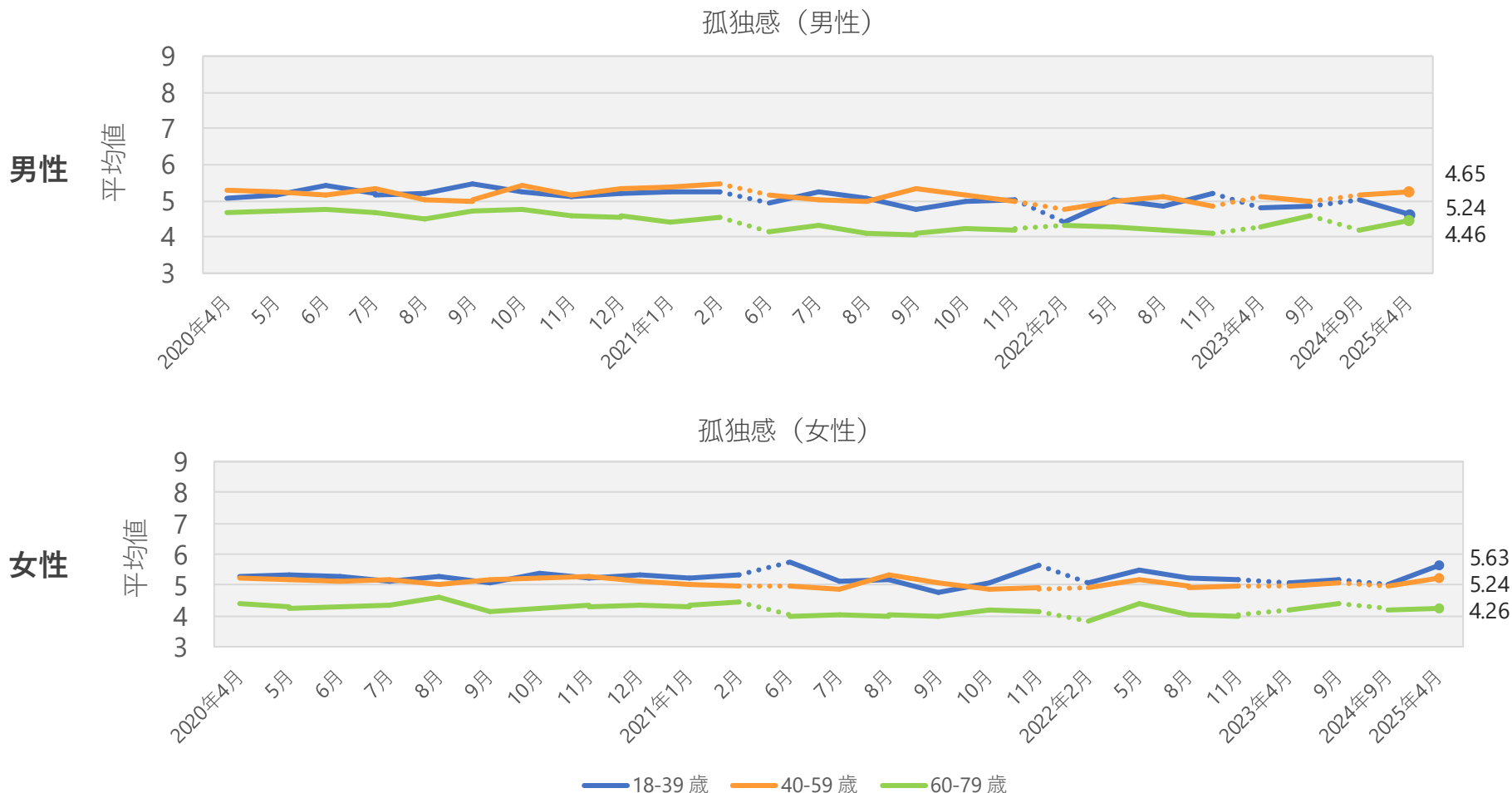
- 不安感スコア全体 ($M = 4.46, SD = 5.35$) については年齢による有意な主効果が認められ、**高齢層（60-79歳）の不安感**は**若年層（18-39歳）および中年層（40-59歳）よりも有意に低い**ことが示された。また、この効果は性別との相互作用効果が有意であり、女性においては年齢が高いほど不安感が低い一方、男性においては中年層の不安感が最も高かった。^{a)}

^{a)} 性別と年齢を説明変数とする2要因分散分析の結果。

2.1. 精神的健康：孤独感の推移

調査概要

結果



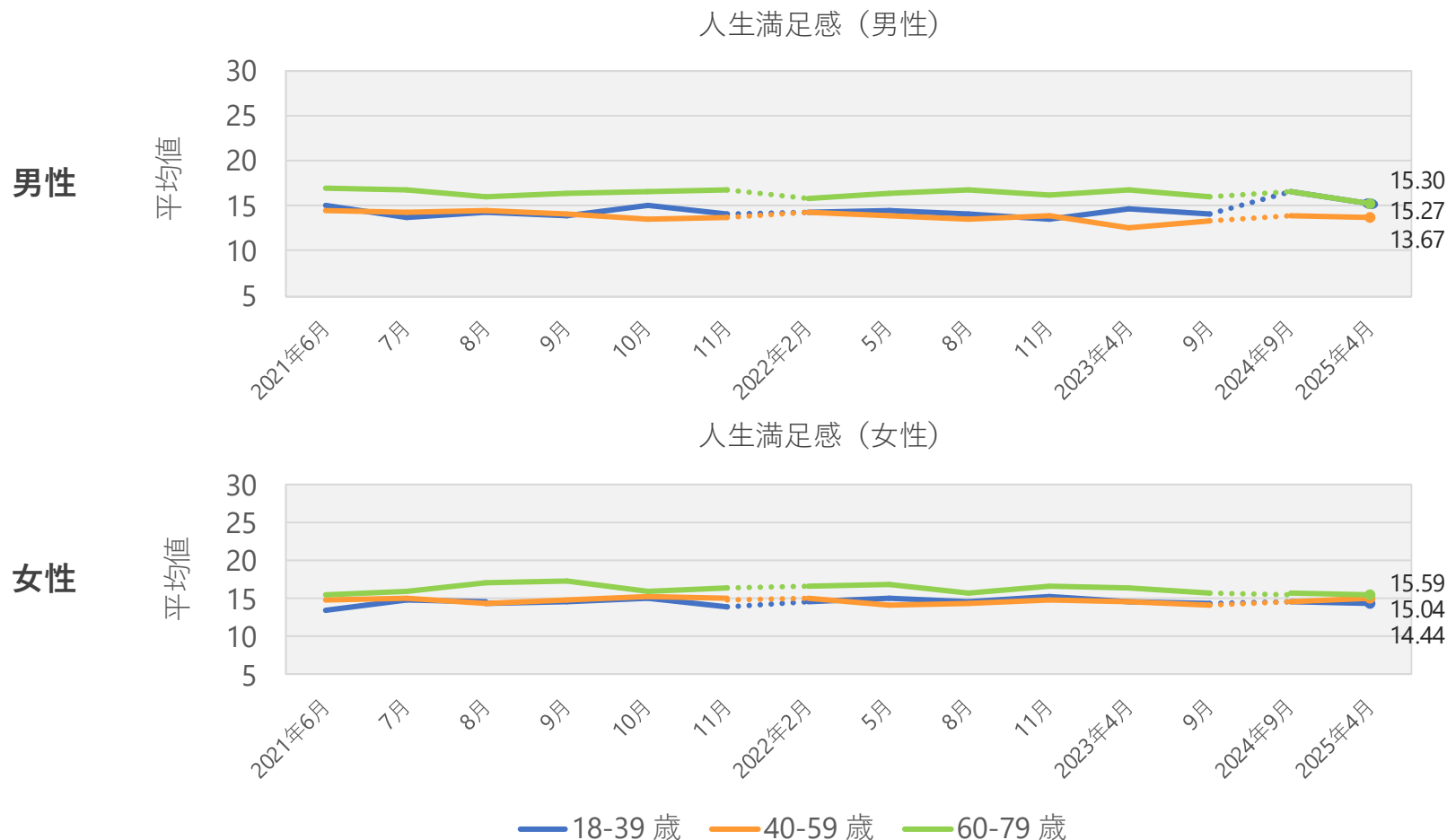
- 孤独感 ($M = 1.63, SD = 0.65$) については性別、年齢両方による有意な主効果が認められ、女性は男性よりも孤独感が有意に高く、**高齢層（60-79歳）の孤独感は若年層（18-39歳）および中年層（40-59歳）よりも有意に低い**ことが示された。また、この効果は性別との相互作用効果が有意であり、女性においては年齢が高いほど孤独感が低い一方、男性においては中年層の孤独感が最も高かった。^{a)}

^{a)} 性別と年齢を説明変数とする2要因分散分析の結果。

2.1. 精神的健康：人生満足感の推移

調査概要

結果



- 人生満足感 ($M = 2.98, SD = 1.16$) については性別、年齢いずれにおいても有意な結果は示されず、交互作用効果も認められなかった。つまり今回の調査においては性別、年齢による人生満足感のちがいは認められなかった。^{a)}

^{a)} 性別と年齢を説明変数とする2要因分散分析の結果。

2.1. 精神的健康と属性

調査概要

結果

属性変数との関連^{a)}

婚姻状況

結婚している人はそれ以外の人より**人生満足感**が高い傾向が示された。

主観的健康

主観的な健康状態が良いほど**抑うつ**、**不安感**、**孤独感**が低く、**人生満足感**が高い傾向が示された。

暮らし向きの変化

1年前と比較した現在の暮らし向きが「良くなった」と感じている人ほど**抑うつ**、**不安感**、**孤独感**が低く、**人生満足感**が高い傾向が示された。

主観的社会階層

主観的な社会階層が高いほど**抑うつ**、**孤独感**が低く、**人生満足感**が高い傾向が示された。

^{a)} 性別、年齢、就業状態、婚姻状況、同居者の有無、学歴、主観的健康、昨年と比較した現在の暮らし向き、主観的な社会階層、世帯年収を説明変数、精神的健康の指標（抑うつ/不安感/孤独感/人生満足感）を目的変数とする共分散構造モデリングによるパス解析の結果。⇒付録3

2.1. 精神的健康と性格特性

調査概要

結果

性格特性との関連^{a)}

...TIPI-J尺度（日本語版Ten Item Personality Inventory; 小塩・阿部, 2012）10項目を使用してビッグファイブ^{b)}を測定。

外向性の高い人は**抑うつ・不安感・孤独感**が低く、**人生満足感**が高い傾向が示された。

協調性の高い人は**抑うつ・不安感・孤独感**が低い傾向が示された。

勤勉性の高い人は**抑うつ・不安感・孤独感**が低く、**人生満足感**が高い傾向が示された。

神経症傾向の高い人は**抑うつ・不安感・孤独感**が高く、**人生満足感**が低い傾向が示された。

※開放性と精神的健康指標の間にも有意な相関は見られたが、係数が小さく、ほぼ無相関であった。

※基本的に1%水準で有意な相関関係が示された。上記においては係数の絶対値が.20以上の結果を報告。

a) スピアマンの順位相関分析の結果。⇒付録2

b) 人の性格を5つの特性（外向性・協調性・勤勉性・神経症傾向・開放性）によって表す理論、およびそれによって捉えられる性格のこと。

2.2. 不公平感の推移

2.2. 不公平感の推移：項目の詳細

調査概要

結果

〈不公平感の測定指標〉

- 個人的不公平感

…**自分ならびに自分と同じ世代・性別の人が社会から公平に扱われていないと思うか**を2項目で尋ねた（例「あなたは、自分自身が公平な扱いを受けていないと感じることがありますか」）。

- 社会的不公平感

…**日本社会および世界は公平な場ではないと思うか**を2項目で尋ねた。（例「あなたは、日本社会は公平な場でないと感じることがありますか」）。

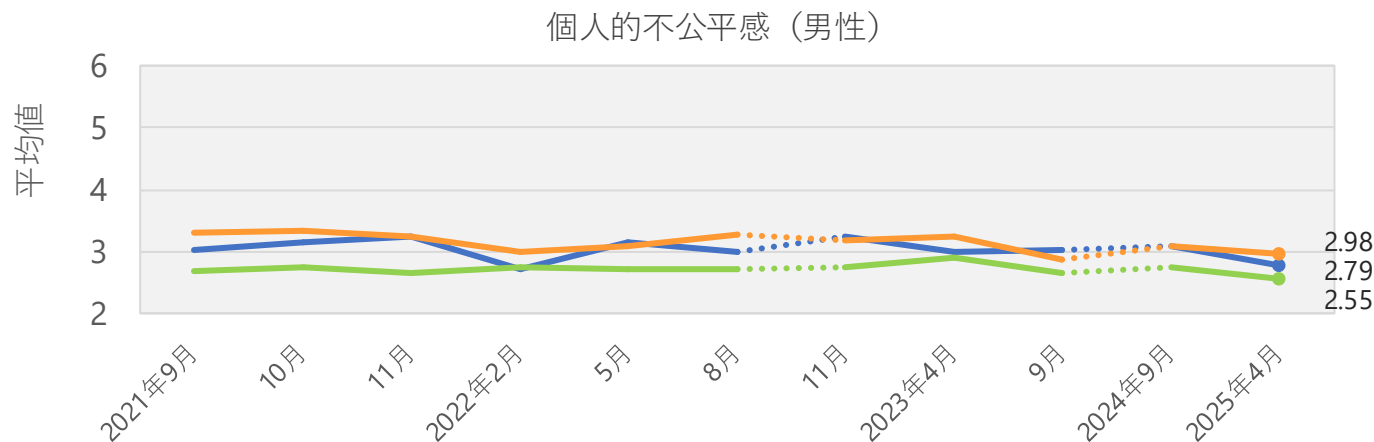
☆不公平感は第3回社会抑うつ度調査（2021年9月）から上記の項目で定期的な測定を開始。

2.2. 不公平感：個人的不公平感の推移

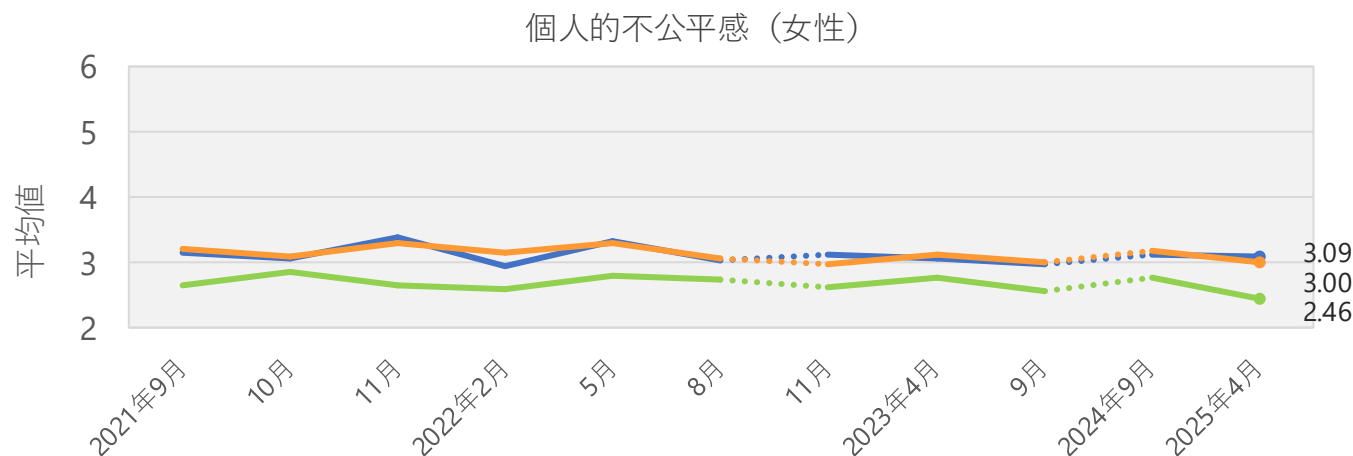
調査概要

結果

男性



女性



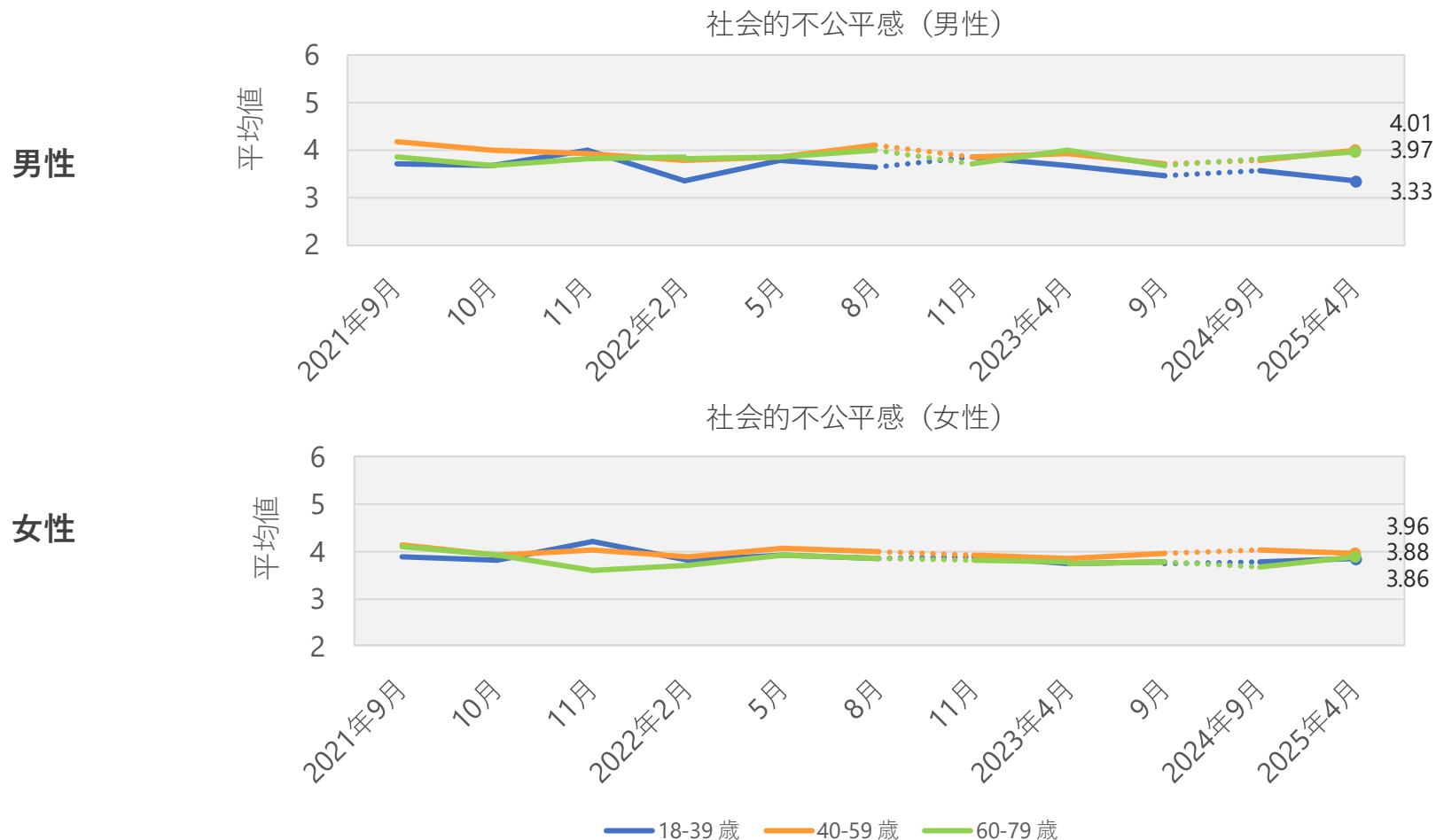
- 個人的不公平感 ($M = 1.40, SD = 0.60$) については年齢による有意な主効果が認められ、**高齢層（60-79歳）の個人的不公平感は若年層（18-39歳）および中年層（40-59歳）よりも有意に低い**ことが示された。一方、性別による主効果や性別と年齢の交互作用効果は認められなかった。^{a)}

^{a)} 性別と年齢を説明変数とする2要因分散分析の結果。

2.2. 不公平感：社会的不公平感の推移

調査概要

結果



- 社会的不公平感 ($M = 1.93, SD = 0.72$) については年齢による有意な主効果が認められ、**若年層（18-39歳）の社会的不公平感は中年層（40-59歳）および高齢層（60-79歳）よりも有意に高い**ことが示された。また、この効果は性別との相互作用効果が有意であり、男性においてのみ見られた。^{a)}

^{a)} 性別と年齢を説明変数とする2要因分散分析の結果。

2.2. 不公平感と属性

調査概要

結果

属性変数との関連^{a)}

就業状態

仕事をしている人はそれ以外の人より**個人的不公平感が高い**傾向が示された。

学歴

学歴が高いほど**個人的不公平感が低い**傾向が示された。

主観的健康

主観的な健康状態が良いほど、**個人的不公平感と社会的不公平感が低い**傾向が示された。

暮らし向きの変化

1年前と比較した現在の暮らし向きが「良くなった」と感じている人ほど、**個人的不公平感と社会的不公平感が低い**傾向が示された。

主観的社会階層

主観的な社会階層が高いほど、**社会的不公平感が低い**傾向が示された。

☆**婚姻状況、同居者の有無、世帯年収から不公平感への統計的に有意な関連は示されなかった。**

^{a)} 性別、年齢、就業状態、婚姻状況、同居者の有無、学歴、主観的健康、昨年と比較した現在の暮らし向き、主観的な社会階層、世帯年収を説明変数、不公平感（個人的/社会的）を目的変数とする共分散構造モデリングによるパス解析の結果有意であった結果を報告。⇒付録4

2.2. 不公平感と精神的健康

調査概要

結果

精神的健康との関連^{b)}

個人的不公平感、社会的不公平感いずれにおいても不公平感が高いほど抑うつ、不安感、孤独感が高く、人生満足感が低い傾向が示された。

^{b)} スピアマンの順位相関分析の結果。⇒付録2

2.3. その他の調査項目

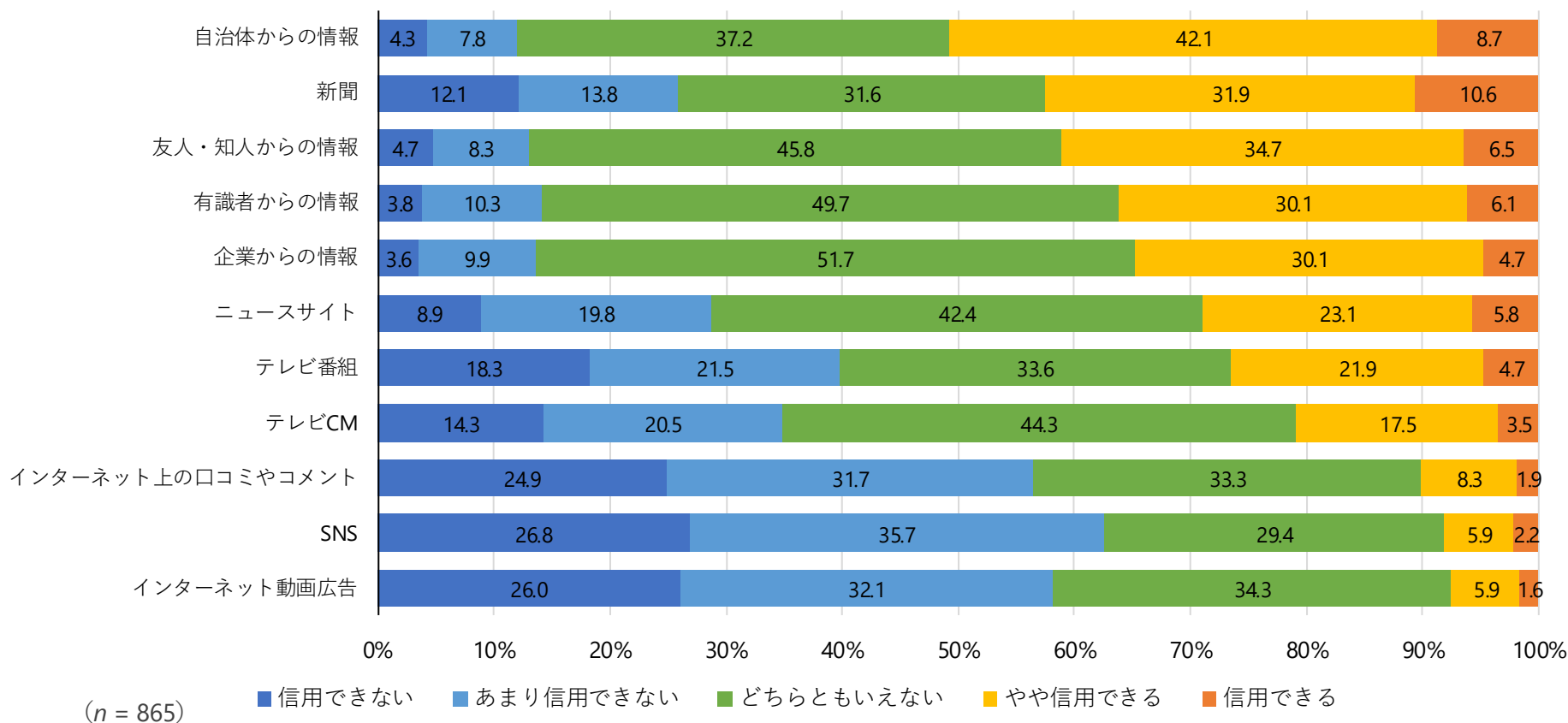
2.3.1. その他：メディア情報

調査概要

結果

(1) 信頼するメディア情報^{a)}

「下記のメディアや情報源についてあなたがどの程度信用をしているかそれぞれお答えください。」



^{a)} メディア信頼度12項目に対する探索的因子分析の結果、第1因子「マスメディア（テレビ番組/新聞/テレビCM/ニュースサイト）」、第2因子「公的・人的情報源（自治体からの情報/企業からの情報/有識者からの情報/友人・知人からの情報）」、第3因子「ネット・SNS（インターネット上の口コミやコメント/インターネット動画広告）」が示唆された。⇒付録5

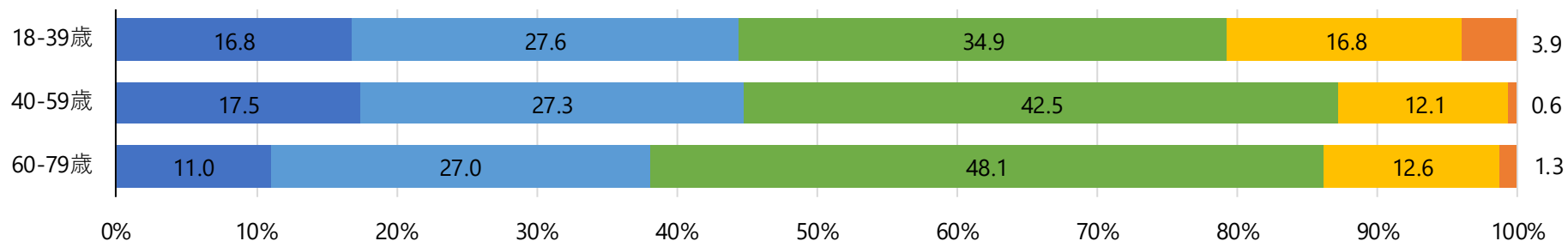
2.3.1. その他：メディア情報

調査概要

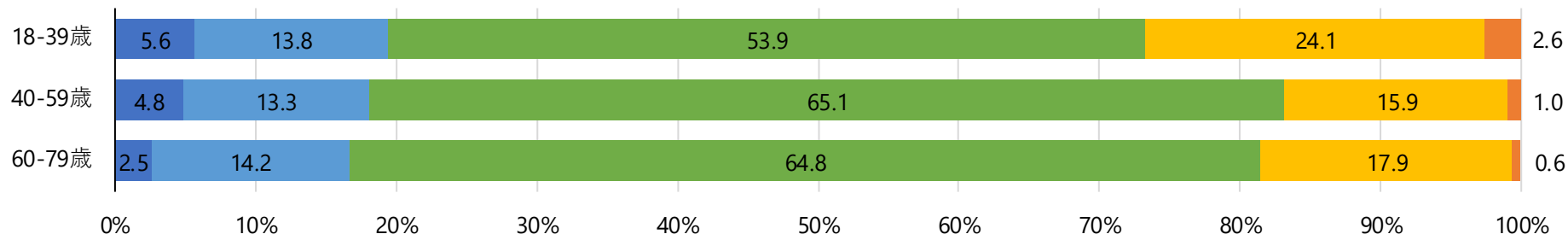
結果

■年代ごと

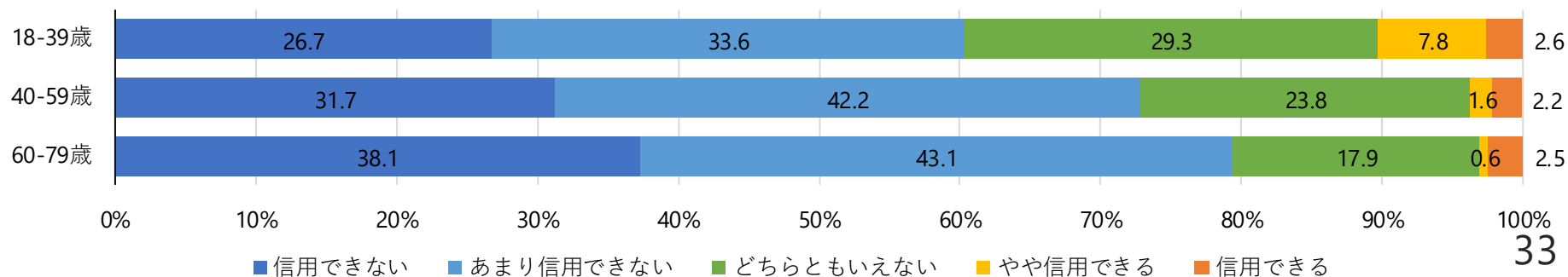
マスメディア



公的・人的情報源



ネット・SNS



■信用できない ■あまり信用できない ■どちらともいえない ■やや信用できる ■信用できる

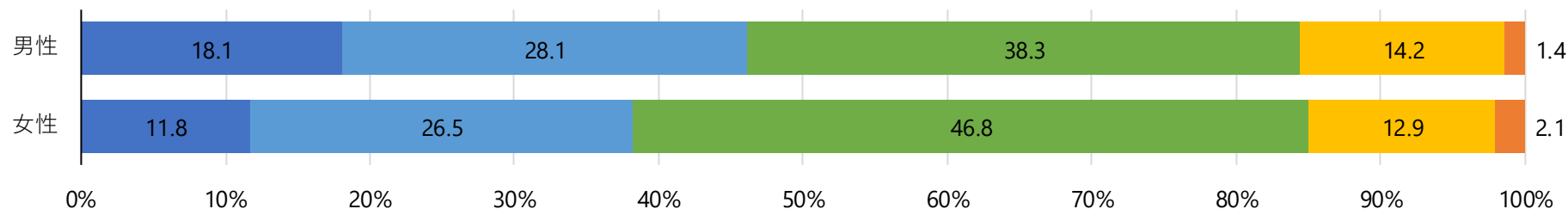
2.3.1. その他：メディア情報

調査概要

結果

■性別ごと

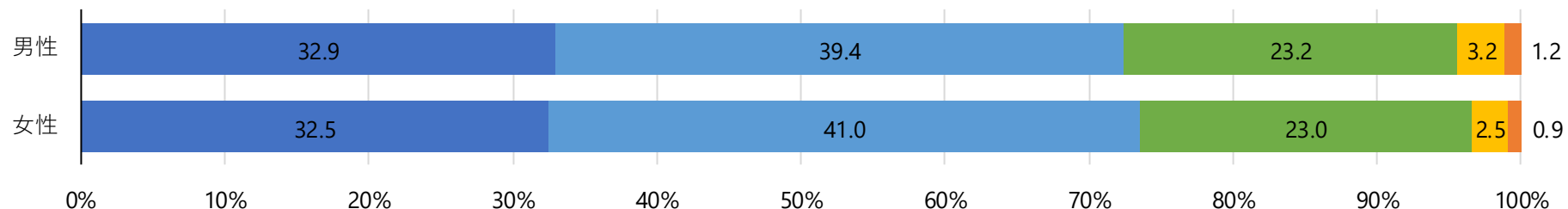
マスメディア



公的・人的情報源



ネット・SNS



■信用できない ■あまり信用できない ■どちらともいえない ■やや信用できる ■信用できる

●性別・年齢によってメディア信頼度は異なるのか^{a)}

- ・ マスメディア情報と公的・人的情報について、性別の主効果が示され、**男性は女性よりもマスメディアの情報を信用し、公的・人的な情報を信用していない**傾向が示された。
- ・ マスメディア情報とネット・SNS情報について、年齢の主効果が示され、**年齢が高いほどマスメディアとネットやSNSの情報を信用していない**傾向が示された。
- ・ いずれのメディア情報においても性別と年齢の有意な交互作用効果は示されず、**性別によるメディア信頼の効果は年齢によって変わらない**ことが示された。

^{a)} 性別、年齢、性別*年齢の交互作用項を説明変数、メディア信頼度（マスメディア/公的・人的情報源/ネット・SNS）を目的変数とする共分散構造モデリングによるパス解析の結果有意であった結果を報告。⇒付録6

2.3.1. その他：メディア情報

調査概要

結果

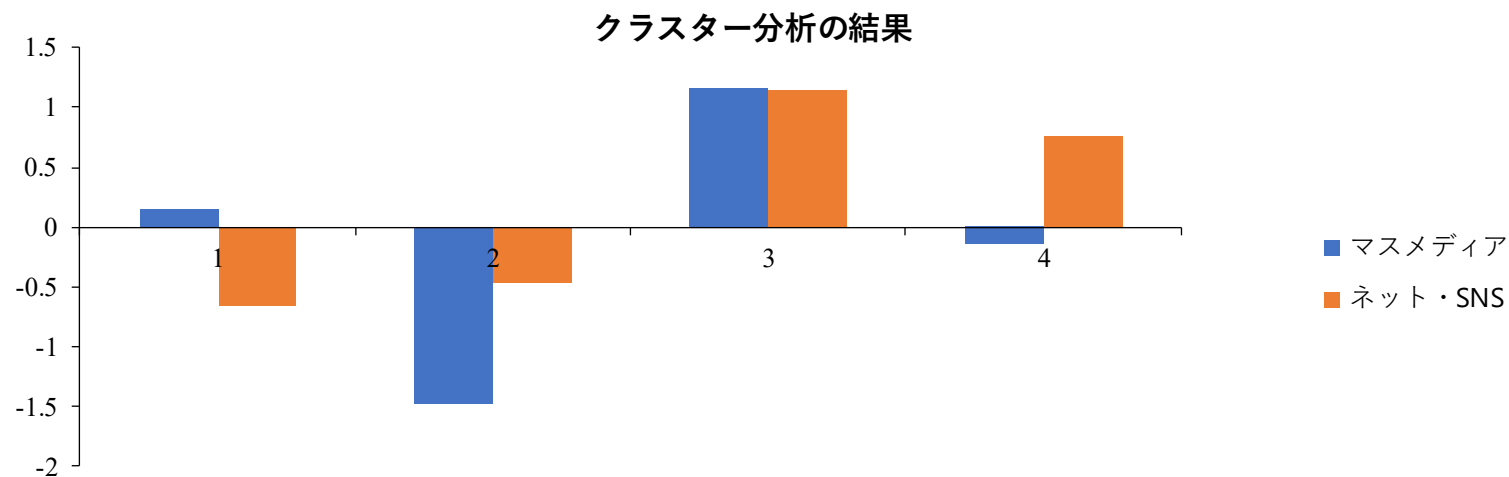
メディア情報のうち「マスメディア」と「ネット・SNS」についてクラスター分析を行った結果、以下の4つのクラスターが得られた。

クラスター1...マスメディア情報の信頼度が高く、ネット・SNS情報の信頼度が低い群 ($n=368$)

クラスター2...両方の信頼度が低い群 ($n=168$)

クラスター3...両方の信頼度が高い群 ($n=183$)

クラスター4...マスメディア情報の信頼度が低く、ネット・SNS情報の信頼度が高い群 ($n=146$)



($n=865$)

注) 得点は標準化得点。

2.3.1. その他：メディア情報

調査概要

結果

- 「マスメディア」と「ネット・SNS」の信頼のパターンの違いによって不公平感・孤独感は異なるのか^{a)}

不公平感

- ・ マスメディア情報の信頼度が高くネット・SNS情報の信頼度が低い群 ($M = 1.65$, $SE = 0.05$) と両方低い群 ($M = 1.84$, $SE = 0.04$) の間に有意な差が示された ($t(861) = 3.62$, $p = .001$, $d = .34$, 95%CL [-0.52, -0.15]) 。
- ・ 両方低い群と両方高い群 ($M = 1.65$, $SE = 0.05$) 、両方低い群とマスメディア情報の信頼度が低くネット・SNS情報の信頼度が高い群 ($M = 1.59$, $SE = 0.05$) の間にもそれぞれ有意な差が示された ($t(861) = 4.61$, $p < .001$, $d = .49$, 95%CL [0.31, 0.68]; $t(861) = 3.92$, $p < .001$, $d = .44$, 95%CL [0.26, 0.63]) 。

⇒両方低い群は他の群と比べて有意に不公平感が高かった。

孤独感

- ・ マスメディア情報の信頼度とネット・SNS情報の信頼度が両方高い群 ($M = 1.65$, $SE = 0.05$) と両方低い群 ($M = 1.65$, $SE = 0.05$) の間に有意な差が示された ($t(861) = 3.48$, $p = .003$, $d = .37$, 95%CL [0.19, 0.56]) 。

⇒両方低い群は両方高い群と比べて有意に孤独感が高かった。

a) クラスター分析で得られた4群を説明変数とする2要因分散分析の結果。

2.3.1. その他：メディア情報

調査概要

結果

- 「マスメディア」と「ネット・SNS」の信頼のパターンの違いによって不公平感・性格特性は異なるのか^{a)}

協調性

- ・ マスメディア情報の信頼度が高くネット・SNS情報の信頼度が低い群 ($M = 4.00$, $SE = 0.06$) と両方低い群 ($M = 4.49$, $SE = 0.09$) の間に有意な差が示された ($t(861) = 4.62$, $p < .001$, $d = .43$, 95%CL [0.25, 0.61]) 。
- ・ 両方低い群と両方高い群 ($M = 5.05$, $SE = 0.09$) 、両方低い群とマスメディア情報の信頼度が低くネット・SNS情報の信頼度が高い群 ($M = 4.87$, $SE = 0.10$) の間にもそれぞれ有意な差が示された ($t(861) = 4.44$, $p < .001$, $d = .47$, 95%CL [-0.66, -0.29]; $t(861) = 2.84$, $p = .018$, $d = .32$, 95%CL [-0.51, -0.14]) 。

神経症傾向

- ・ マスメディア情報の信頼度とネット・SNS情報の信頼度が両方高い群 ($M = 3.77$, $SE = 0.10$) と両方低い群 ($M = 4.16$, $SE = 0.10$) の間に有意な差が示された ($t(861) = 2.72$, $p = .04$, $d = .029$, 95%CL [0.11, 0.47]) 。

※外向性・勤勉性・開放性においてはいずれの群の間にも有意な差は認められなかった。

⇒両方低い群は他の群と比べて有意に低い協調性が示され、
両方高い群は両方低い群と比べて有意に低い神経症傾向が示された。

a) クラスター分析で得られた4群を説明変数とする2要因分散分析の結果。

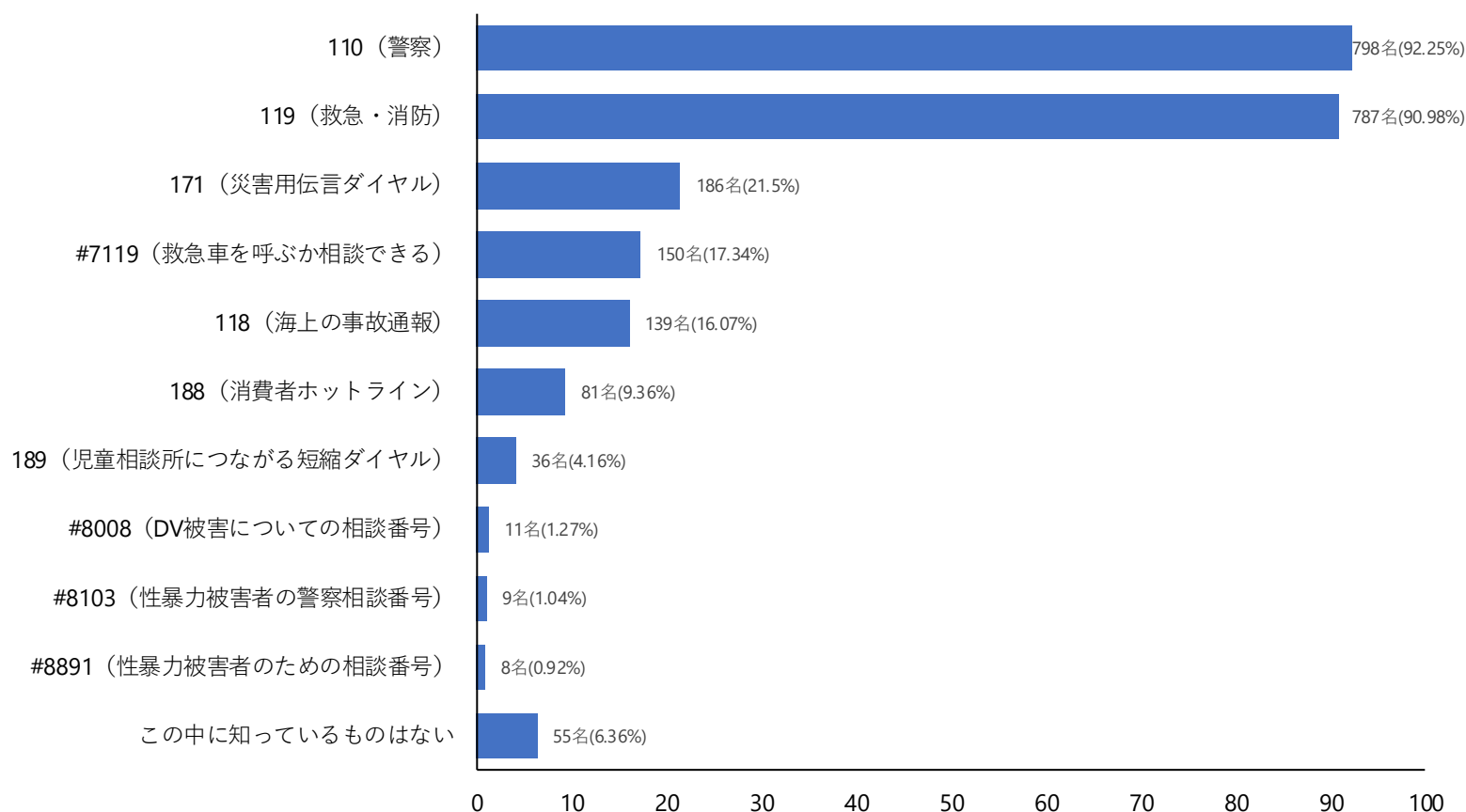
2.3.2. その他：緊急・相談ダイヤル

調査概要

結果

(2) 緊急・相談ダイヤルの認知度

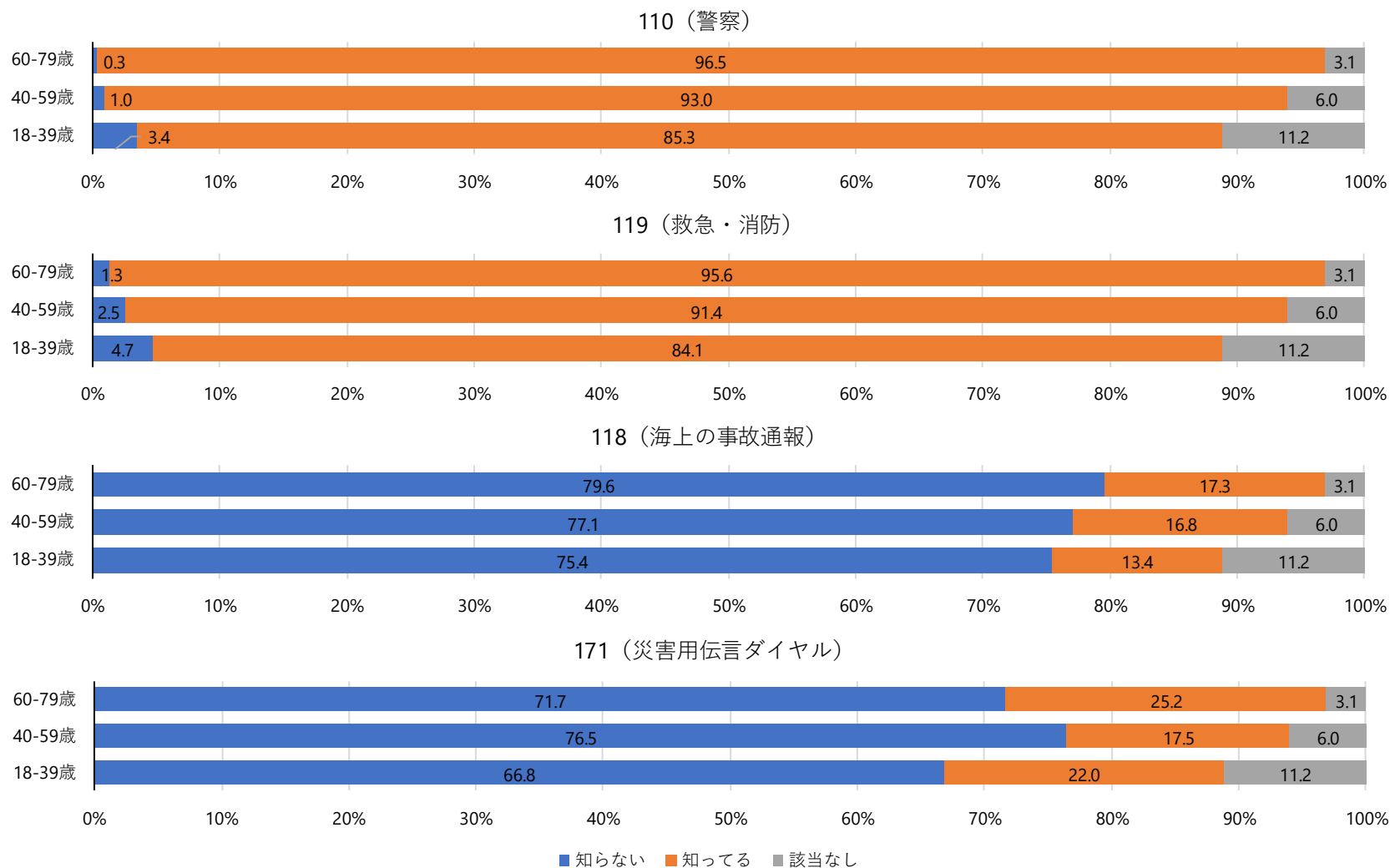
「あなたは次の緊急時の通報先、救助先、相談先の番号を知っていますか。知っているものをすべて選んでください。」



(n = 865)

2.3.2. その他：緊急・相談ダイヤル

■年代ごと①

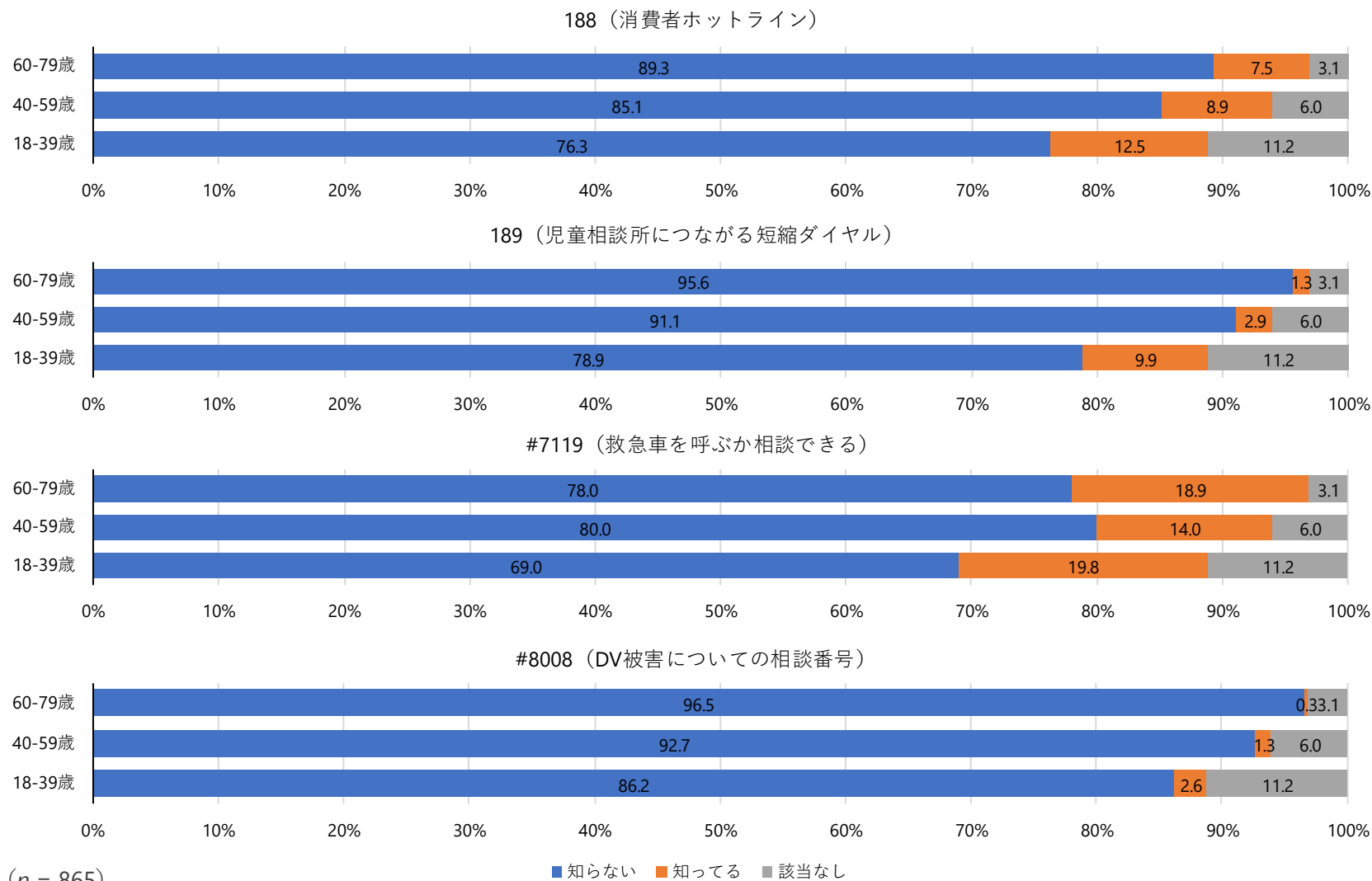


(n = 865)

注) 「この中に知っているものはない」を選択した場合「該当なし」とコーディング。

2.3.2. その他：緊急・相談ダイヤル

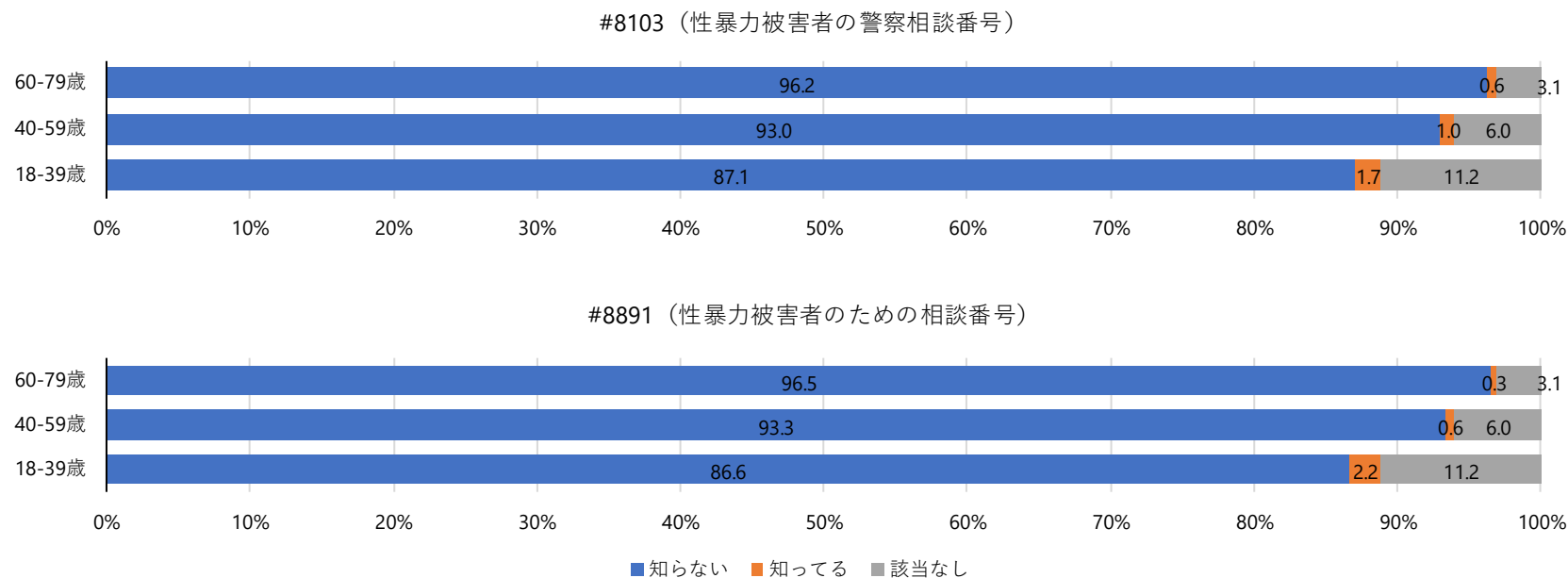
■年代ごと②



注）「この中に知っているものはない」を選択した場合「該当なし」とコーディング。

2.3.2. その他：緊急・相談ダイヤル

■年代ごと③

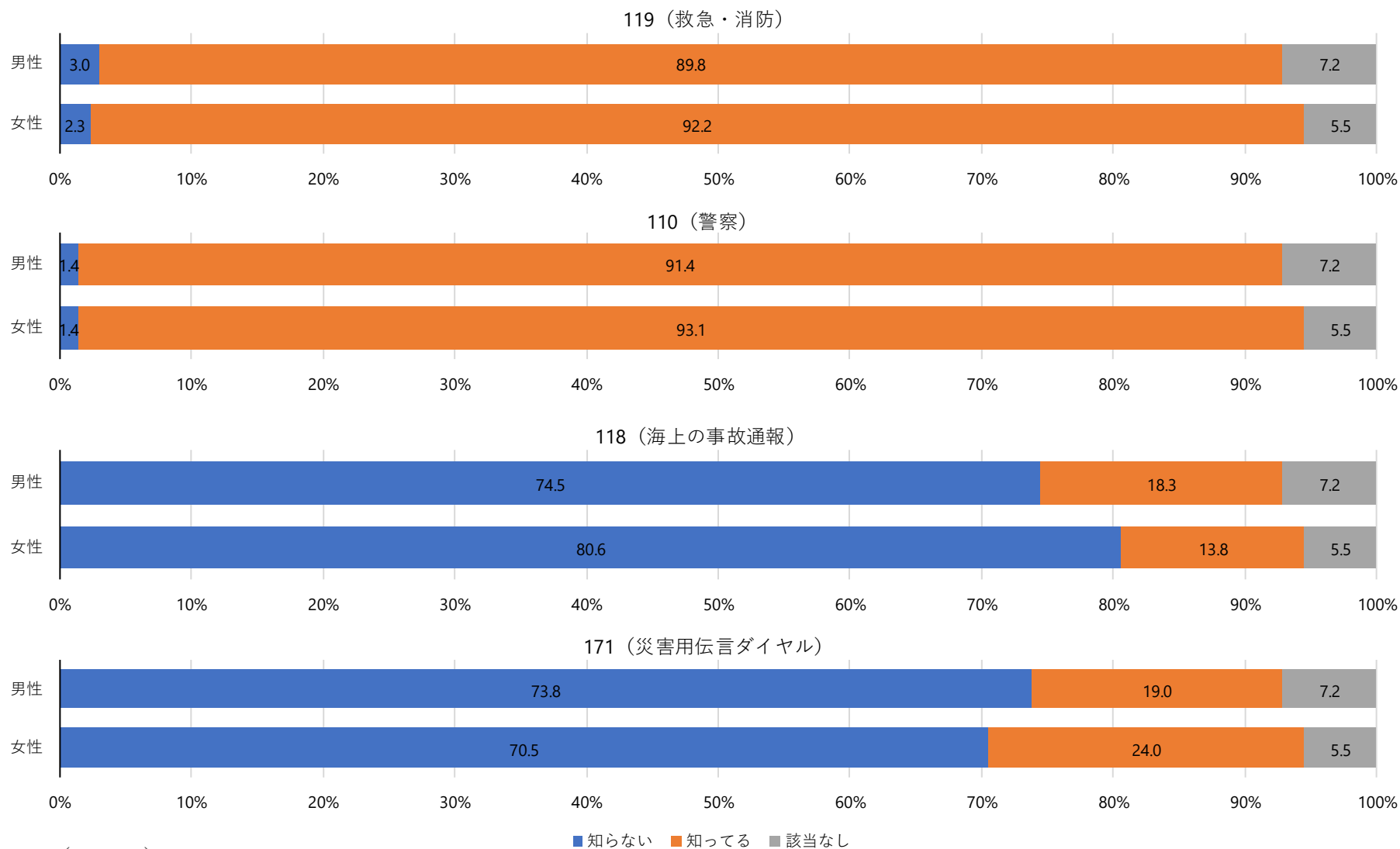


($n = 865$)

注) 「この中に知っているものはない」を選択した場合「該当なし」とコーディング。

2.3.2. その他：緊急・相談ダイヤル

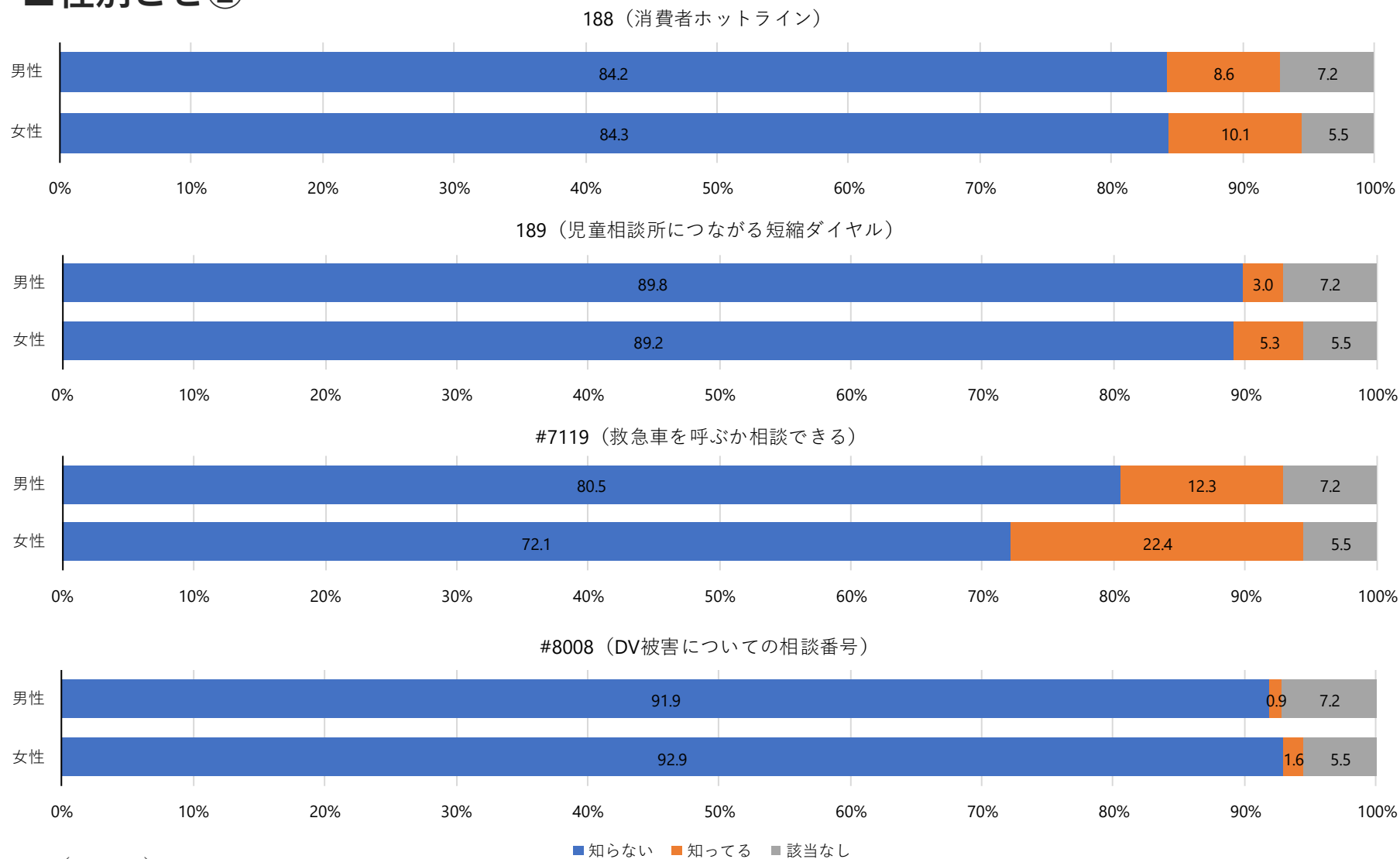
■性別ごと①



注) 「この中に知っているものはない」を選択した場合「該当なし」とコーディング。

2.3.2. その他：緊急・相談ダイヤル

■性別ごと②

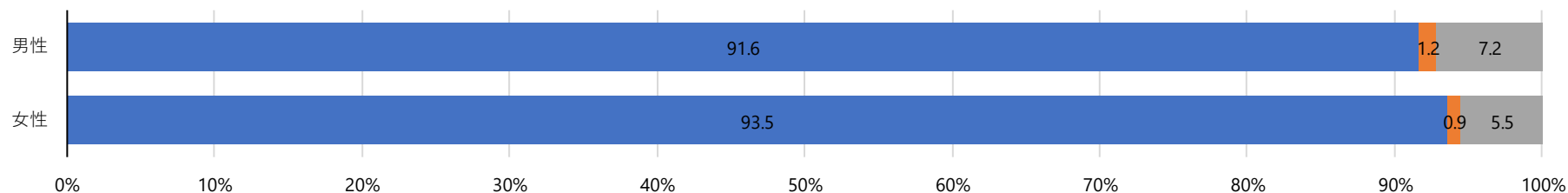


注）「この中に知っているものはない」を選択した場合「該当なし」とコーディング。

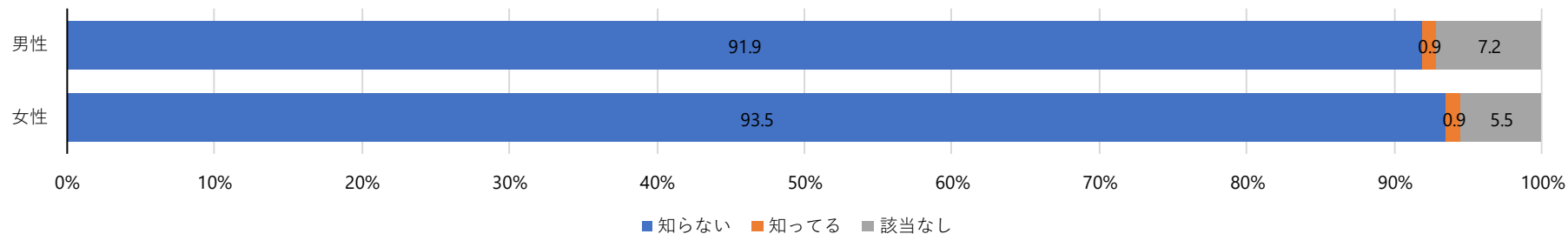
2.3.2. その他：緊急・相談ダイヤル

■性別ごと③

#8103（性暴力被害者の警察相談番号）



#8891（性暴力被害者のための相談番号）



(n = 865)

注) 「この中に知っているものはない」を選択した場合「該当なし」とコーディング。

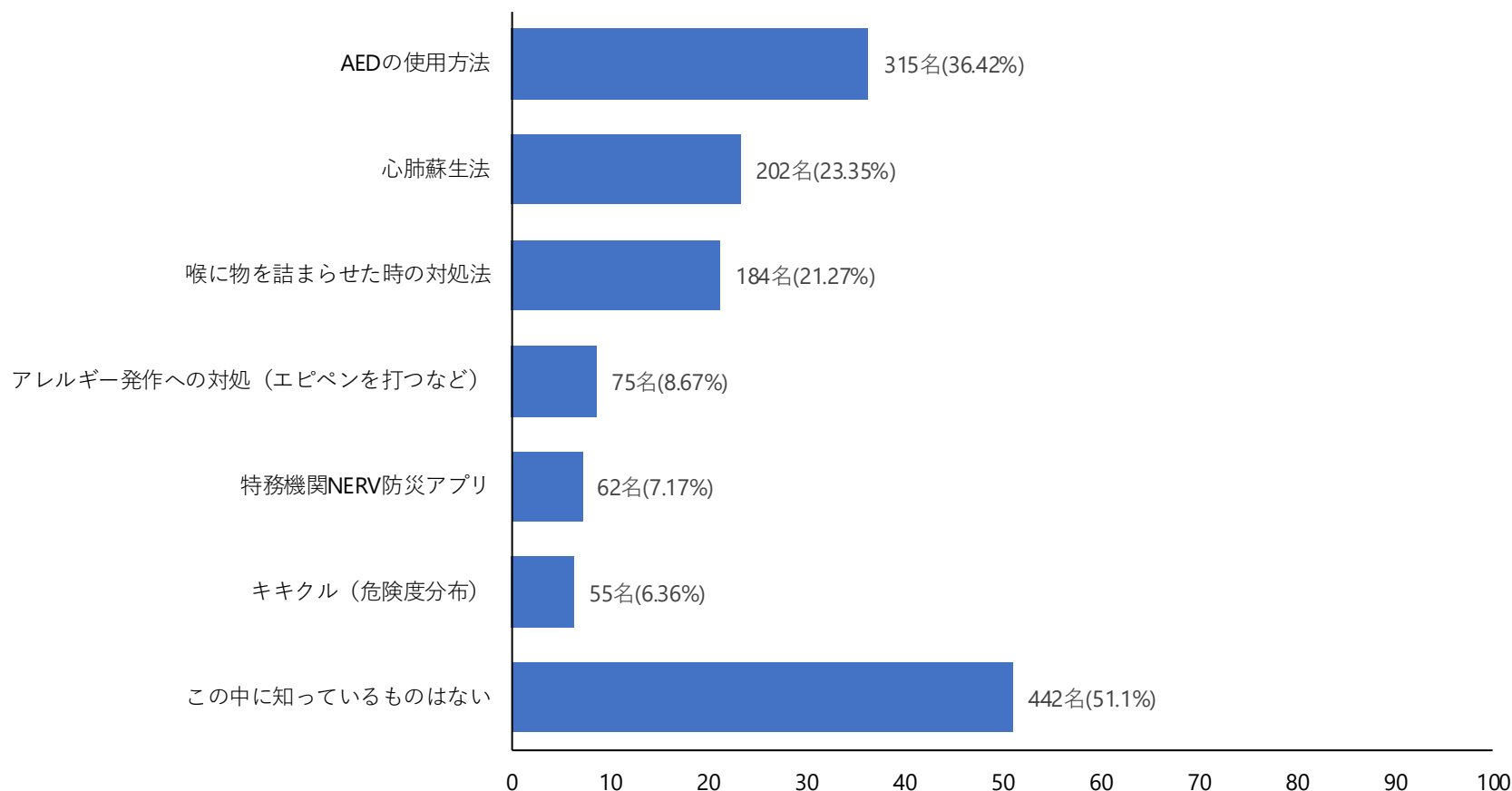
2.3.3. その他：救助方法・災害情報

調査概要

結果

(3) 救助方法・災害情報入手方法認知度

「あなたは次の人命の救助方法や災害情報の入手手段を知っていますか。知っているものをすべて選んでください。」



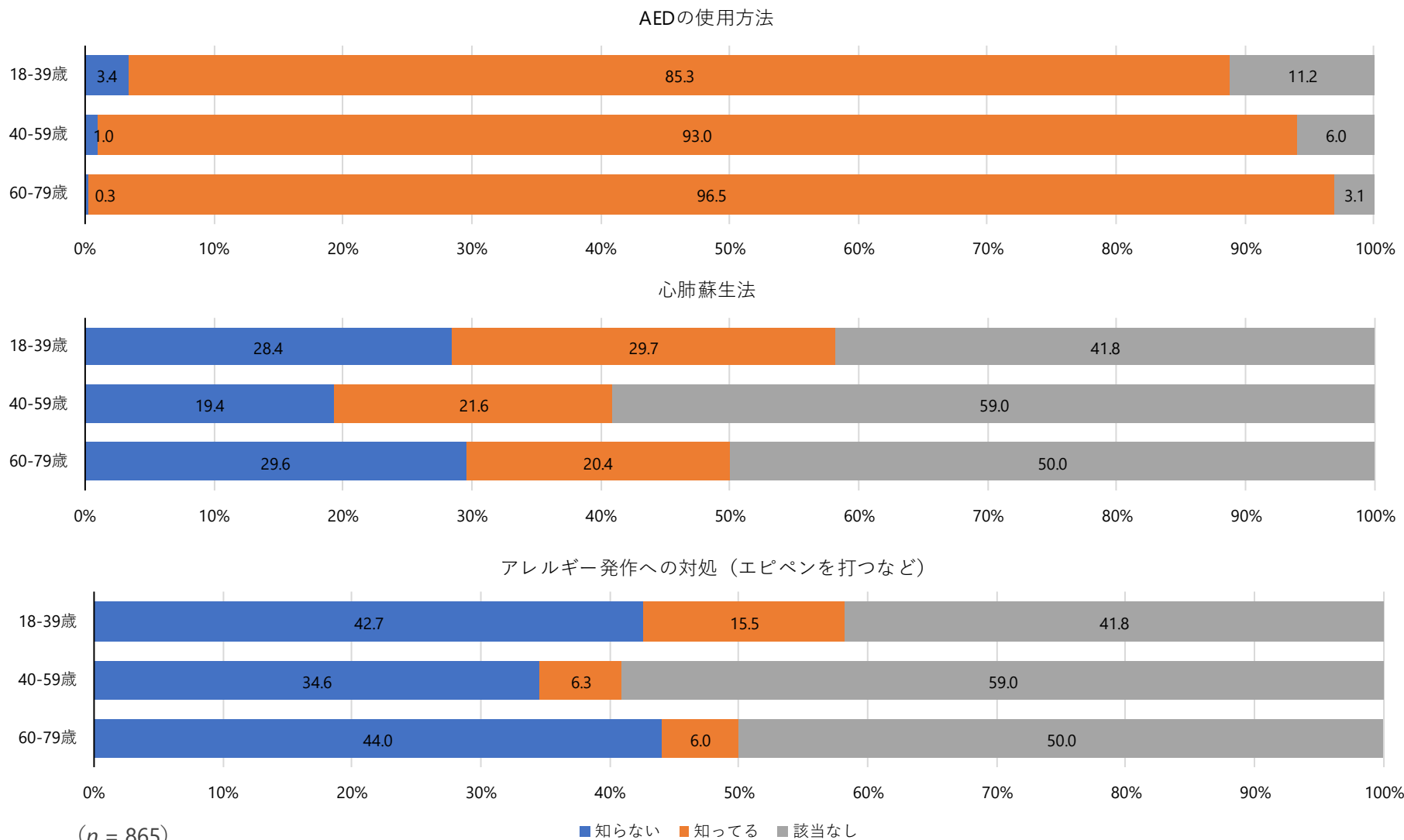
(n = 865)

2.3.3. その他：救助方法・災害情報

調査概要

結果

■年代ごと①



注) 「この中に知っているものはない」を選択した場合「該当なし」とコーディング。

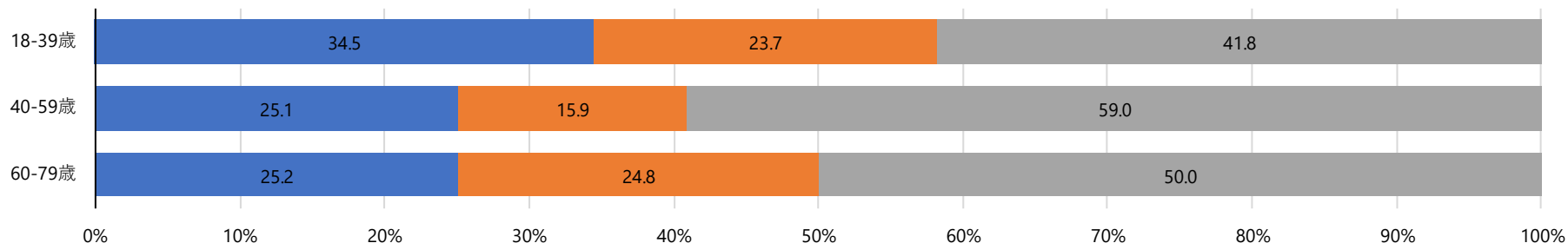
2.3.3. その他：救助方法・災害情報

調査概要

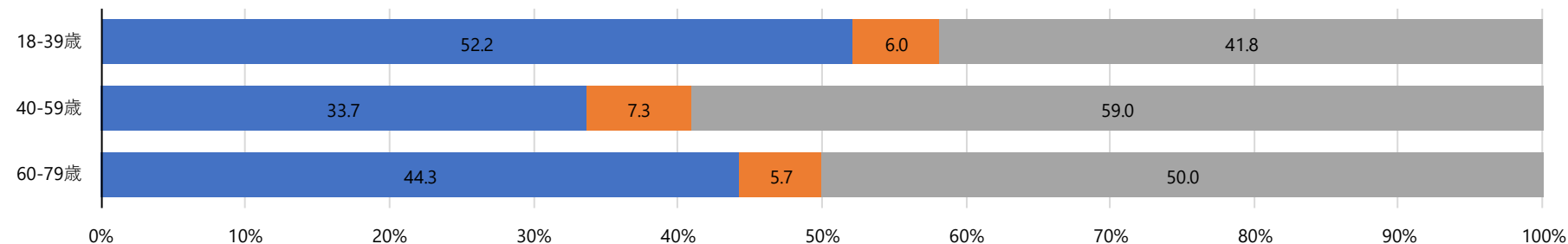
結果

■年代ごと②

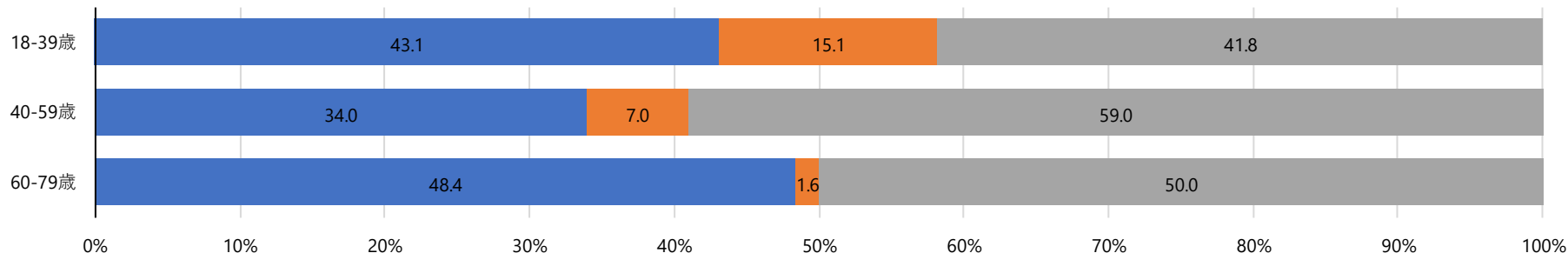
喉に物を詰ませた時の対処法



キキクル（危険度分布）



特務機関NERV防災アプリ



(n = 865)

■ 知らない ■ 知ってる ■ 該当なし

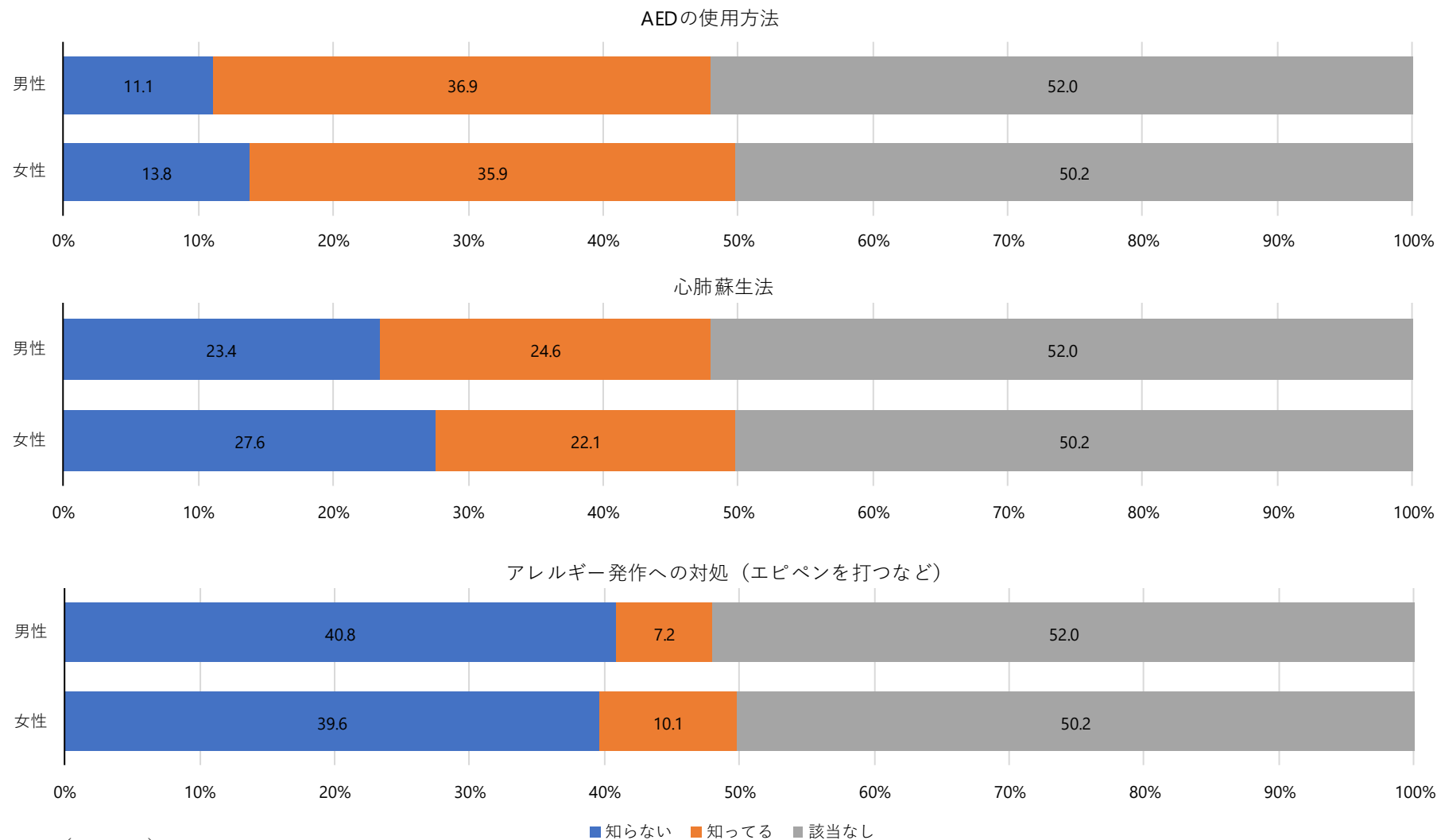
注) 「この中に知っているものはない」を選択した場合「該当なし」とコーディング。

2.3.3. その他：救助方法・災害情報

調査概要

結果

■性別ごと①



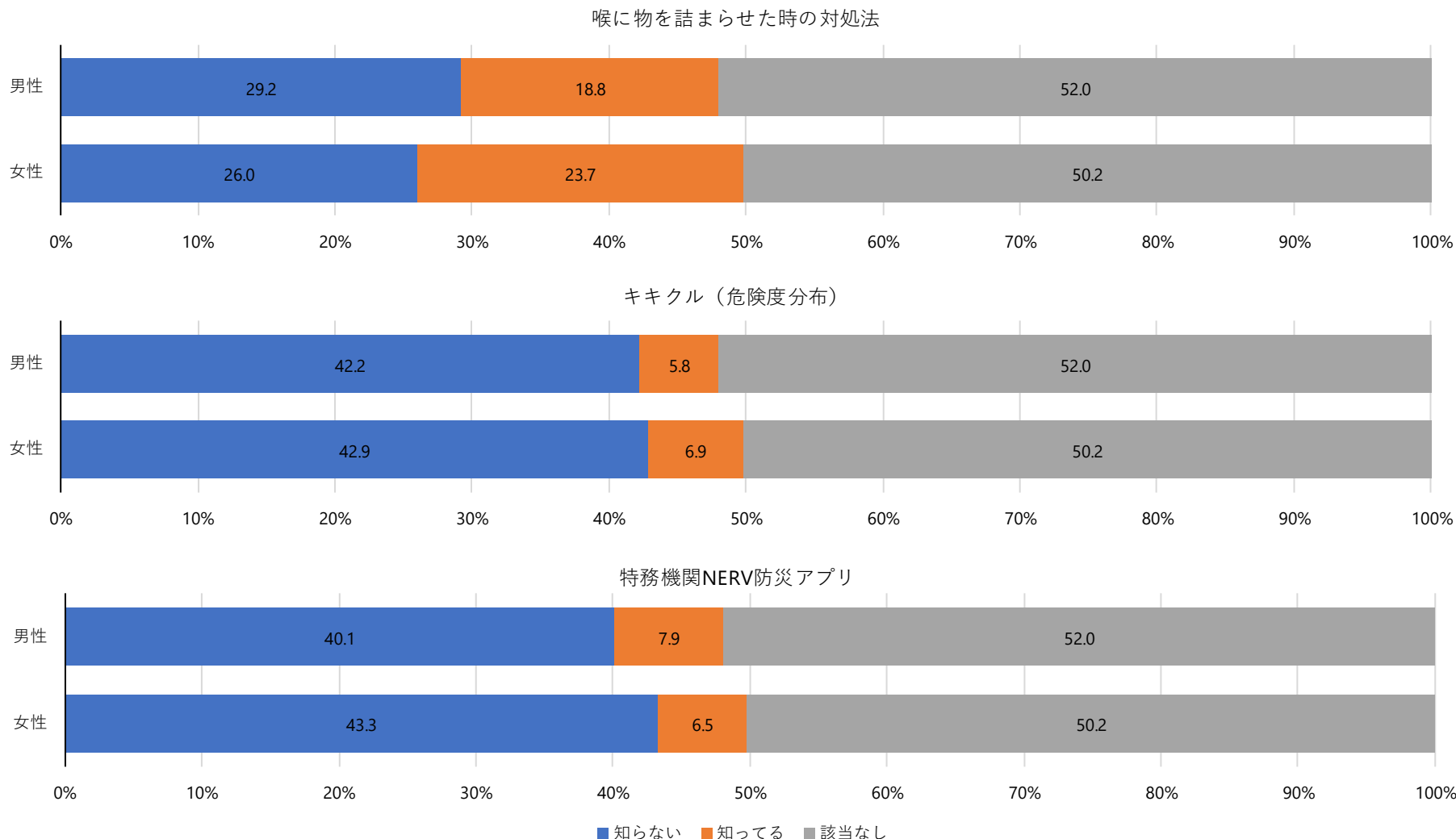
注）「この中に知っているものはない」を選択した場合「該当なし」とコーディング。

2.3.3. その他：救助方法・災害情報

調査概要

結果

■性別ごと②



(n = 865)

注) 「この中に知っているものはない」を選択した場合「該当なし」とコーディング。

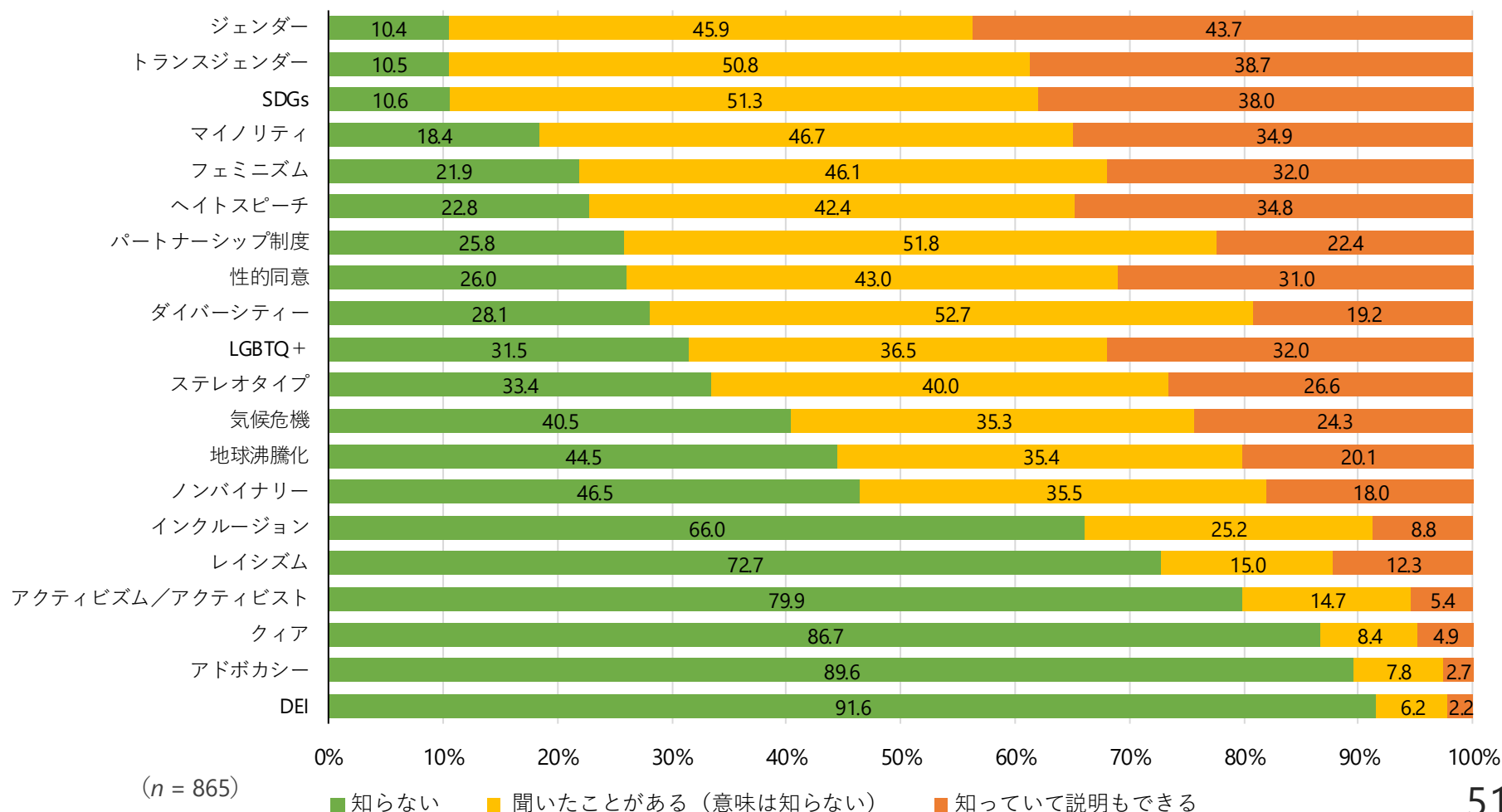
2.3.4. その他：ワード認知度

調査概要

結果

(4) ワード認知度

「下記の言葉についてあなたがどの程度知っているかそれぞれお答えください。」



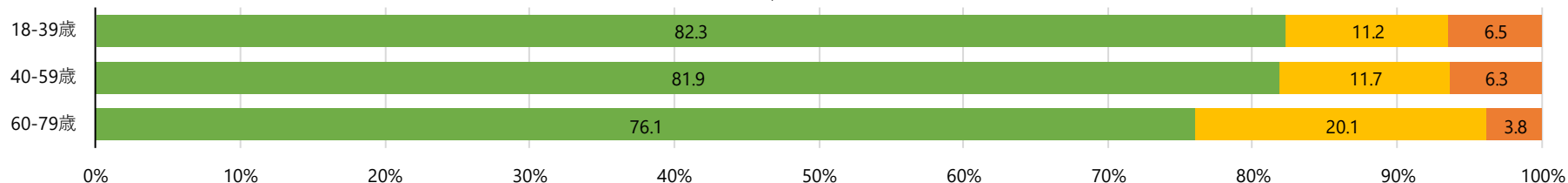
2.3.4. その他：ワード認知度

調査概要

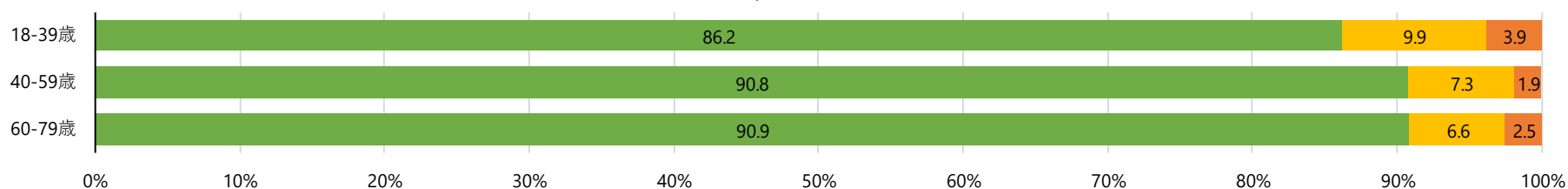
結果

■年代ごと①

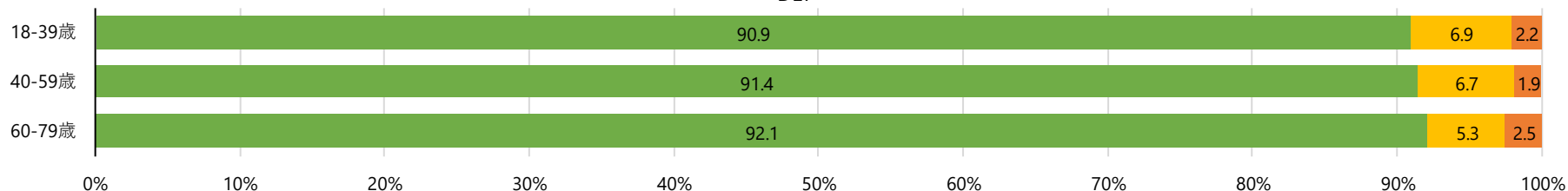
アクティビズム／アクティビスト



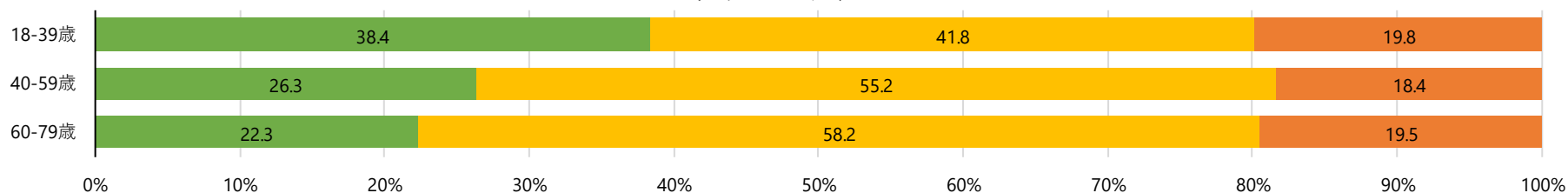
アドボカシー



DEI



ダイバーシティー



(n = 865)

■ 知らない ■ 聞いたことがある（意味は知らない） ■ 知っていて説明もできる

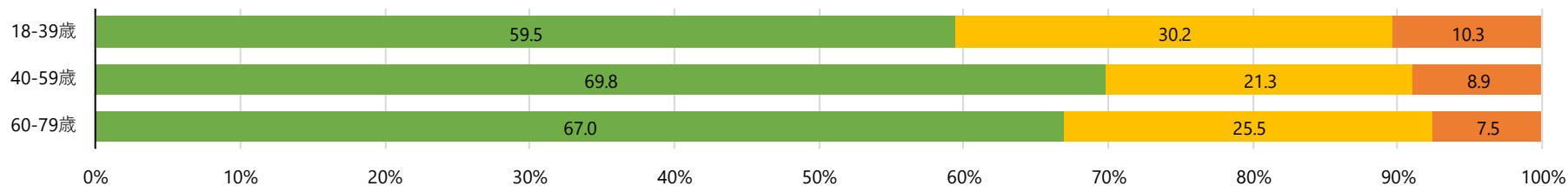
2.3.4. その他：ワード認知度

調査概要

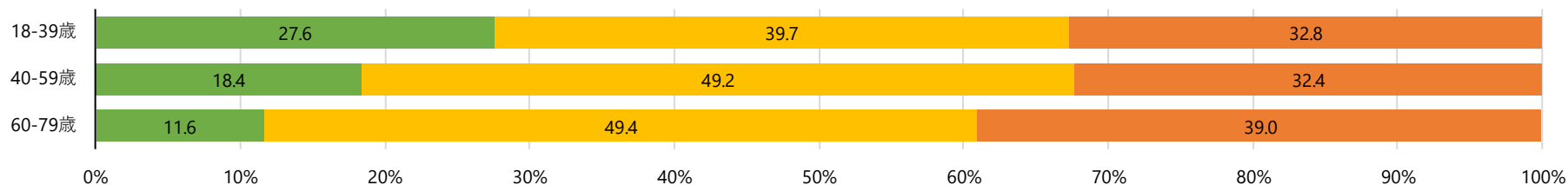
結果

■年代ごと②

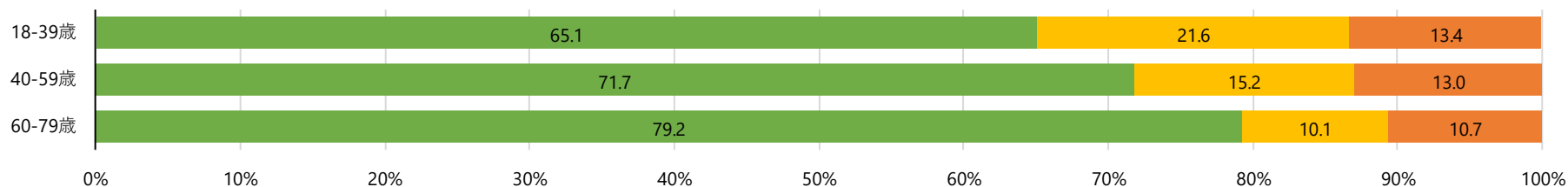
インクルージョン



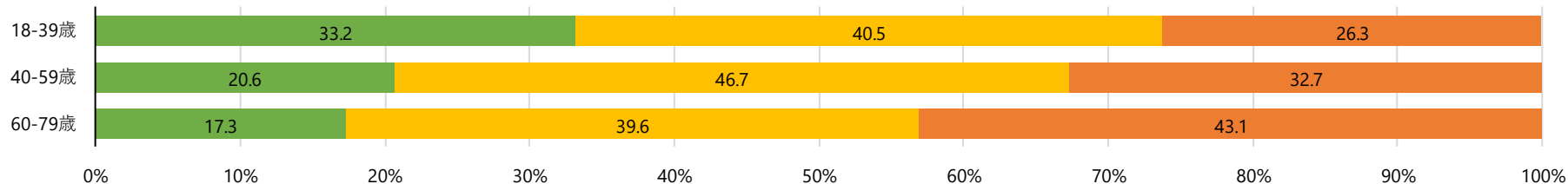
マイノリティ



レイシズム



ヘイトスピーチ



(n = 865)

■ 知らない ■ 聞いたことがある（意味は知らない） ■ 知っていて説明もできる

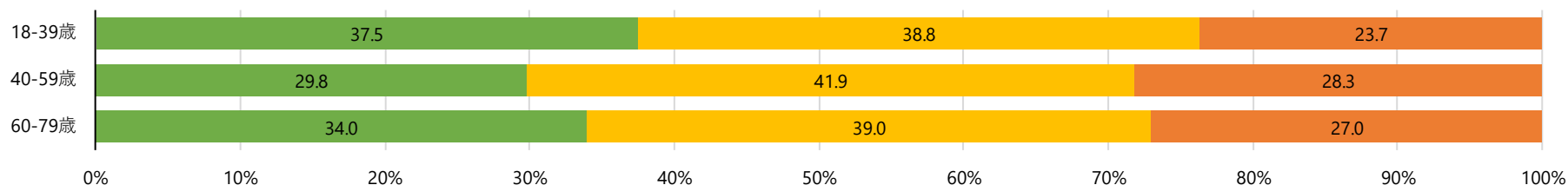
2.3.4. その他：ワード認知度

調査概要

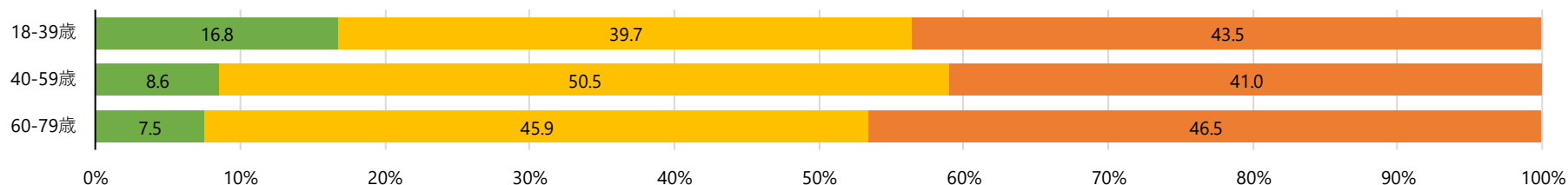
結果

■年代ごと③

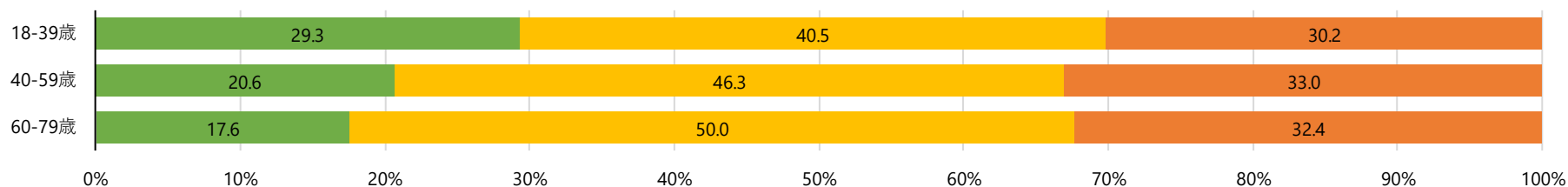
ステレオタイプ



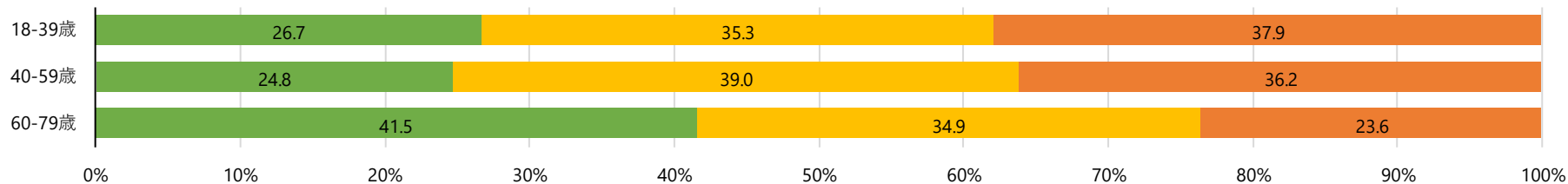
ジェンダー



フェミニズム



LGBTQ+



(n = 865)

■ 知らない ■ 聞いたことがある (意味は知らない) ■ 知っていて説明もできる

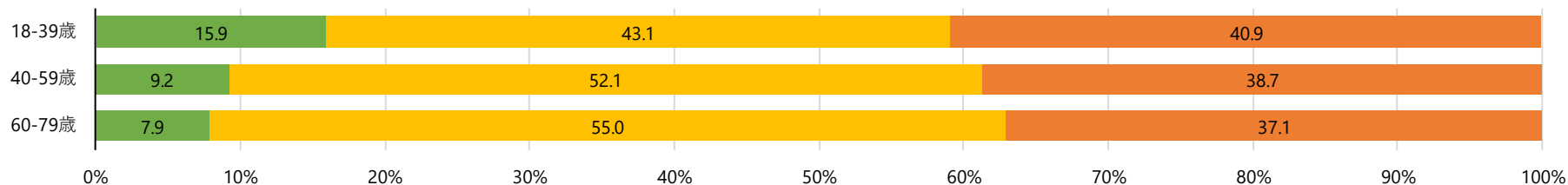
2.3.4. その他：ワード認知度

調査概要

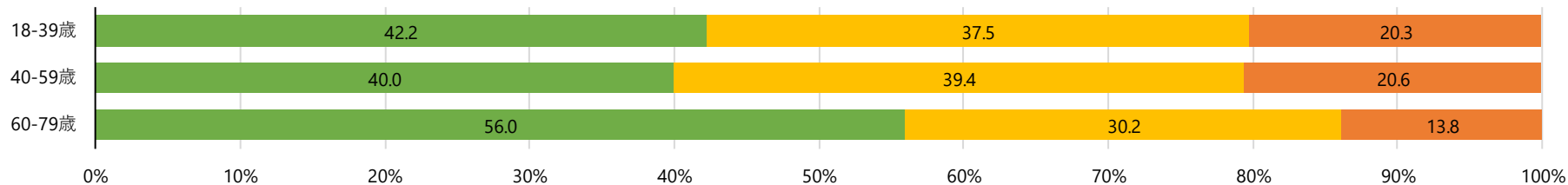
結果

■年代ごと④

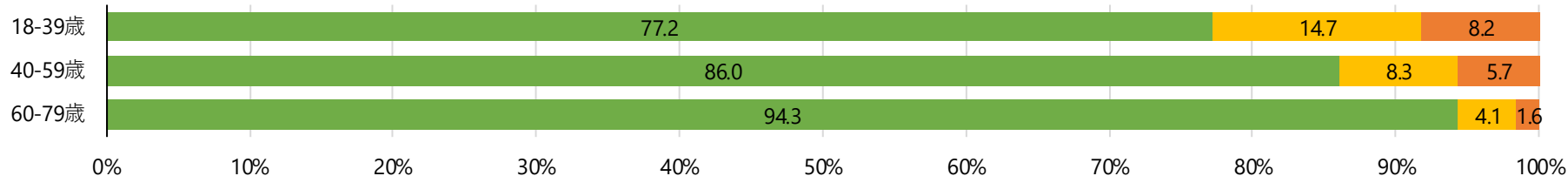
トランスジェンダー



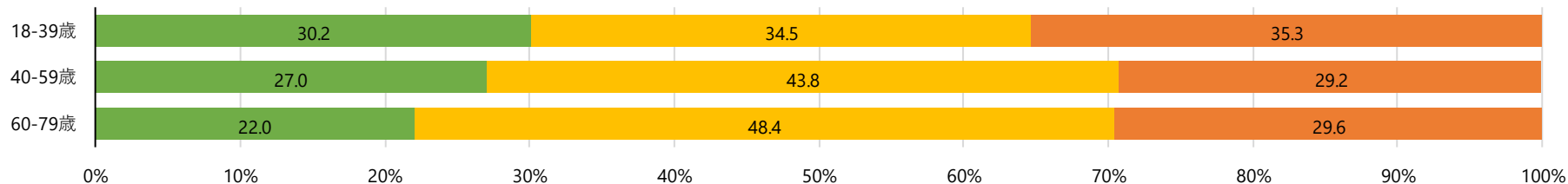
ノンバイナリー



クィア



性的同意



(n = 865)

■ 知らない ■ 聞いたことがある（意味は知らない） ■ 知っていて説明もできる

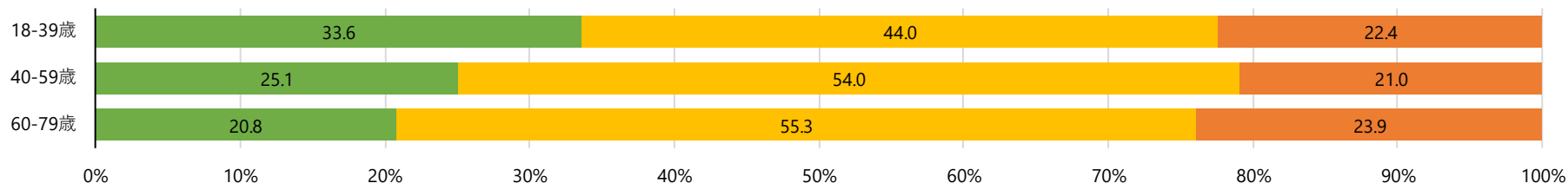
2.3.4. その他：ワード認知度

調査概要

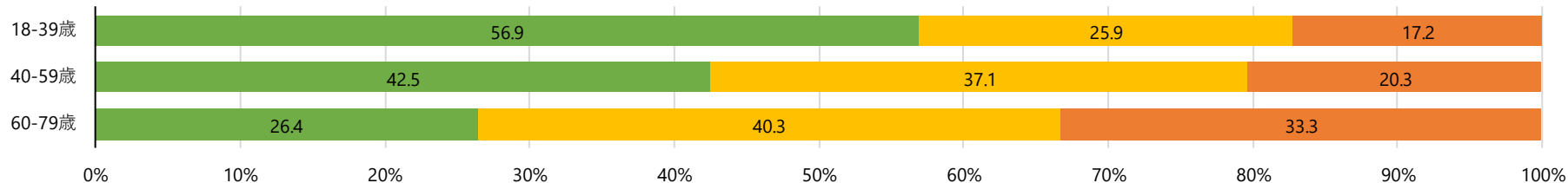
結果

■年代ごと⑤

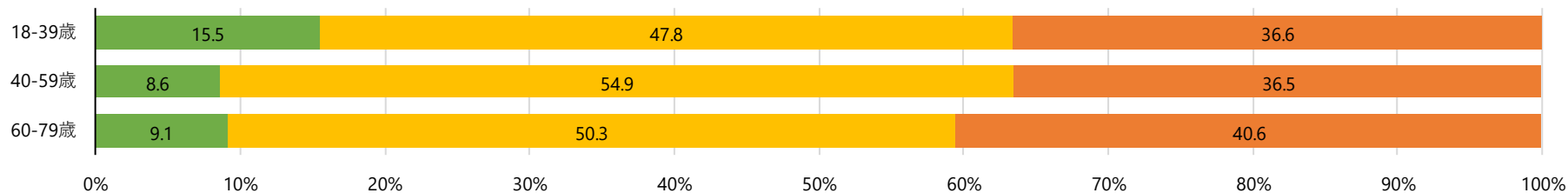
パートナーシップ制度



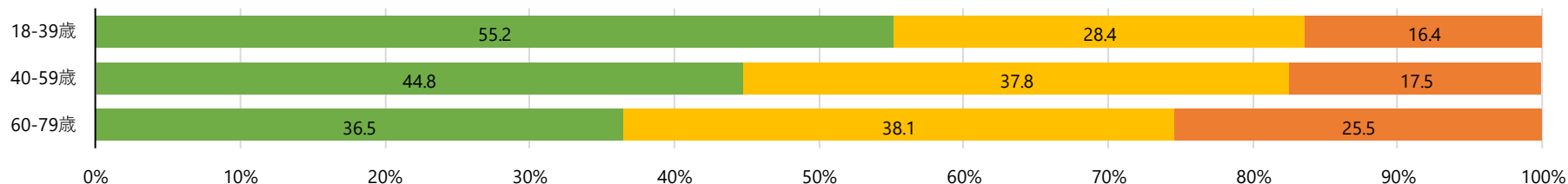
気候危機



SDGs



地球沸騰化



■ 知らない ■ 聞いたことがある（意味は知らない） ■ 知っていて説明もできる

(n = 865)

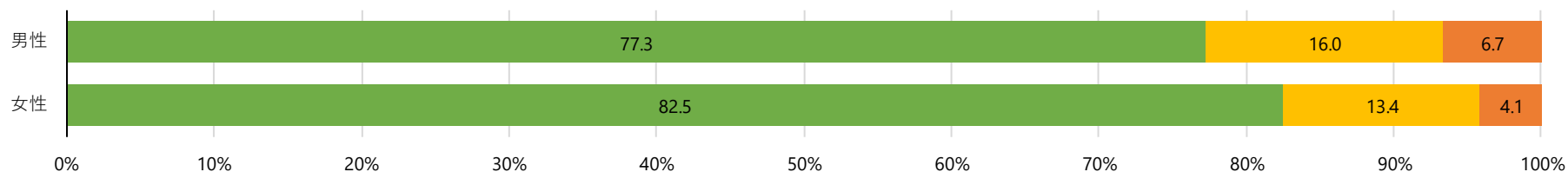
2.3.4. その他：ワード認知度

調査概要

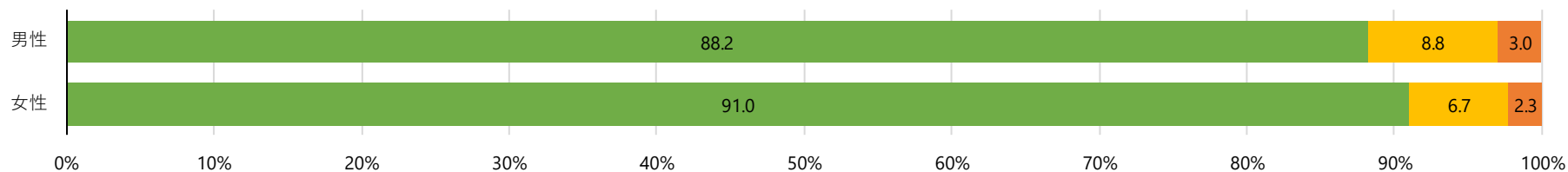
結果

■性別ごと①

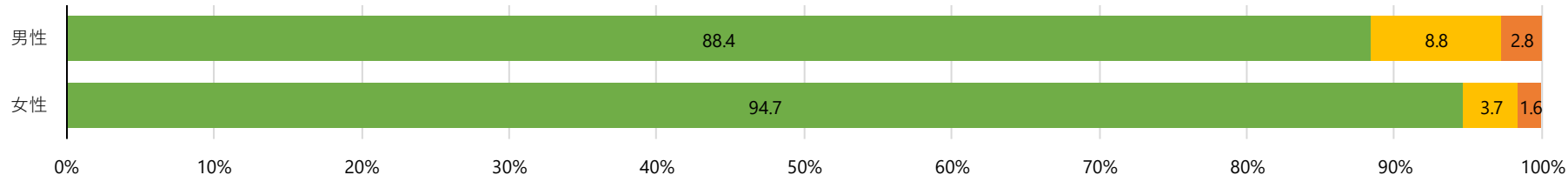
アクティビズム／アクティビスト



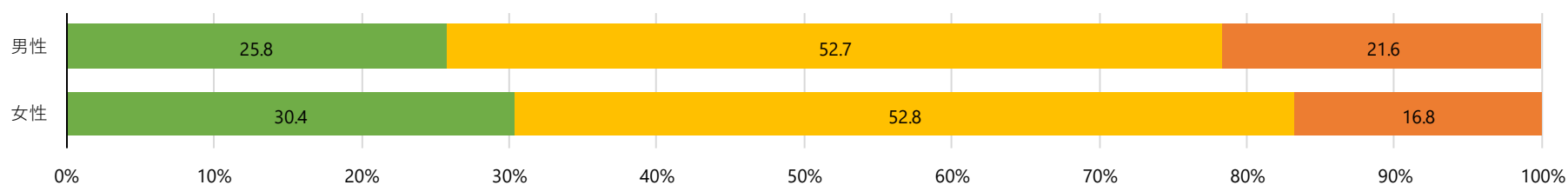
アドボカシー



DEI



ダイバーシティー



(n = 865)

■ 知らない ■ 聞いたことがある（意味は知らない） ■ 知っていて説明もできる

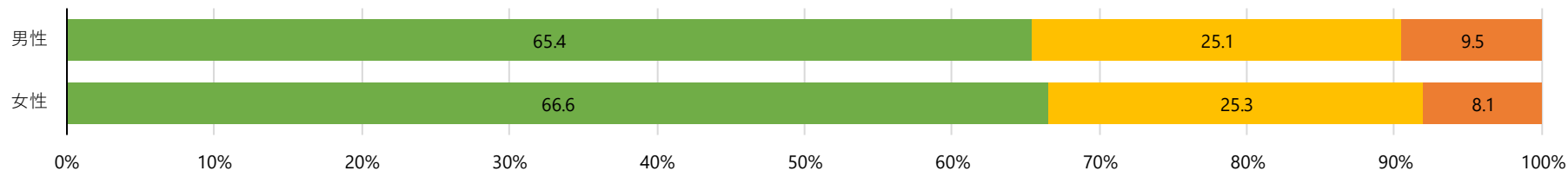
2.3.4. その他：ワード認知度

調査概要

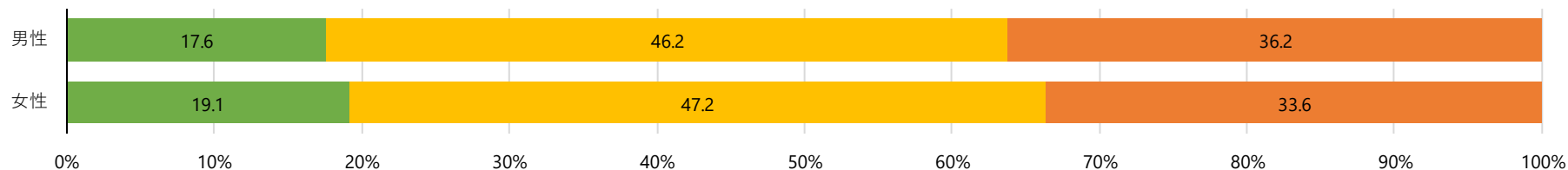
結果

■性別ごと②

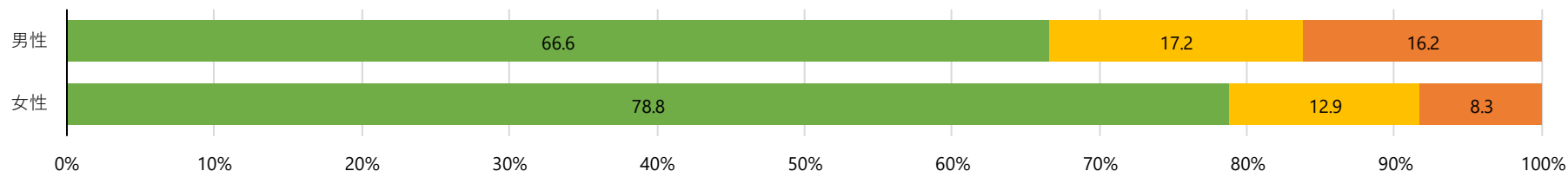
インクルージョン



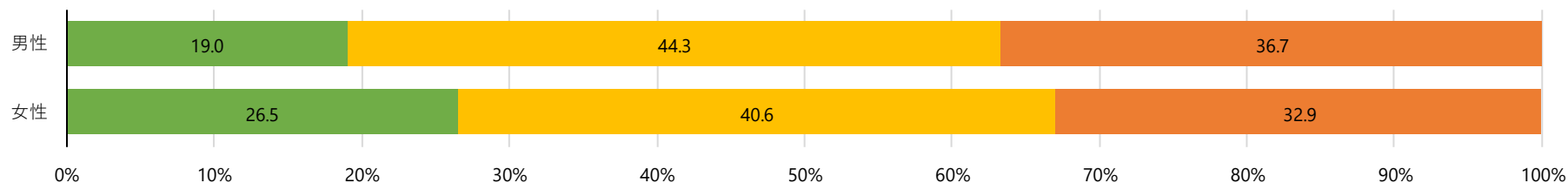
マイノリティ



レイシズム



ヘイトスピーチ



(n = 865)

■ 知らない ■ 聞いたことがある（意味は知らない） ■ 知っていて説明もできる

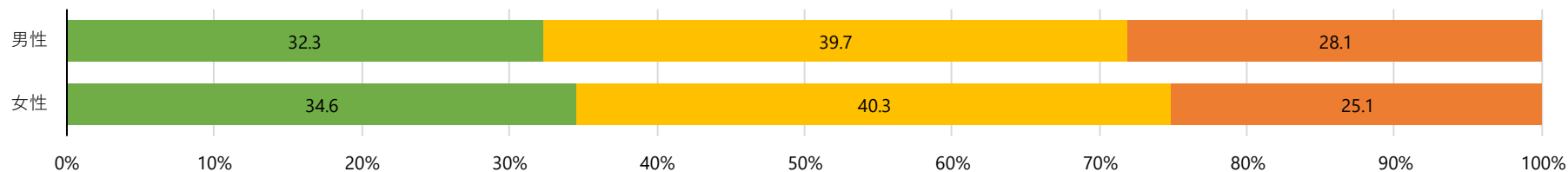
2.3.4. その他：ワード認知度

調査概要

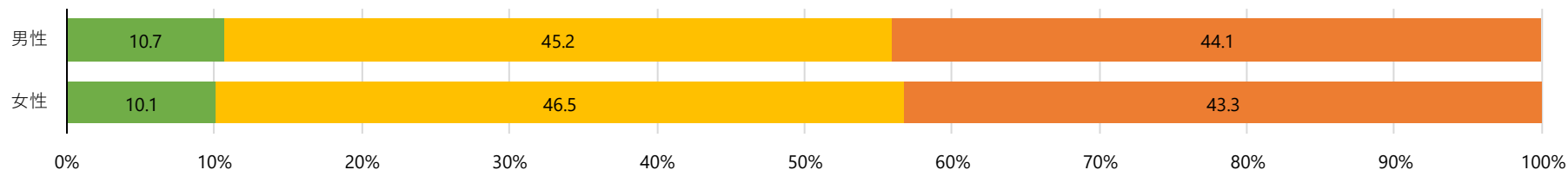
結果

■性別ごと③

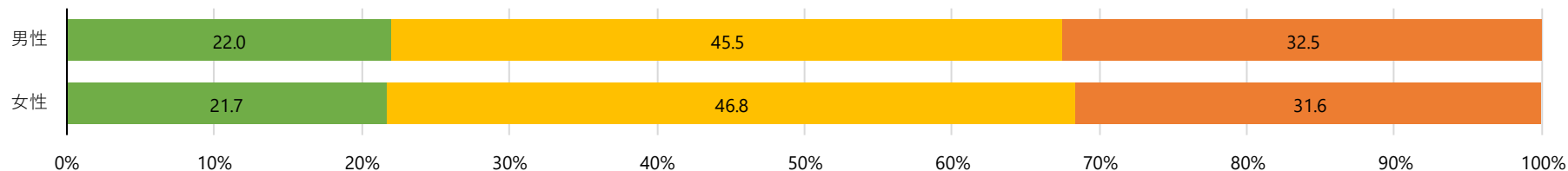
ステレオタイプ



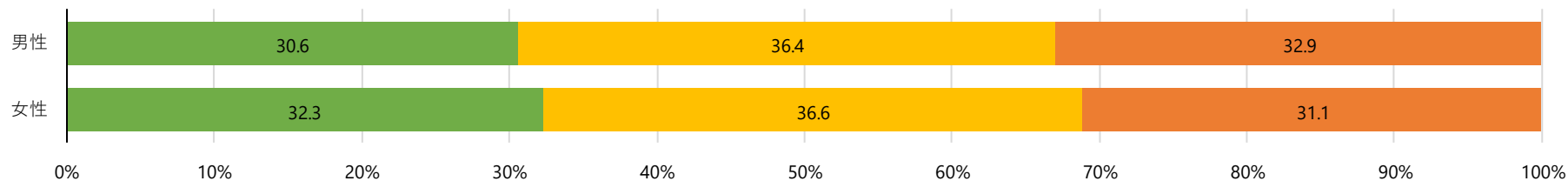
ジェンダー



フェミニズム



LGBTQ+



(n = 865)

■ 知らない ■ 聞いたことがある（意味は知らない） ■ 知っていて説明もできる

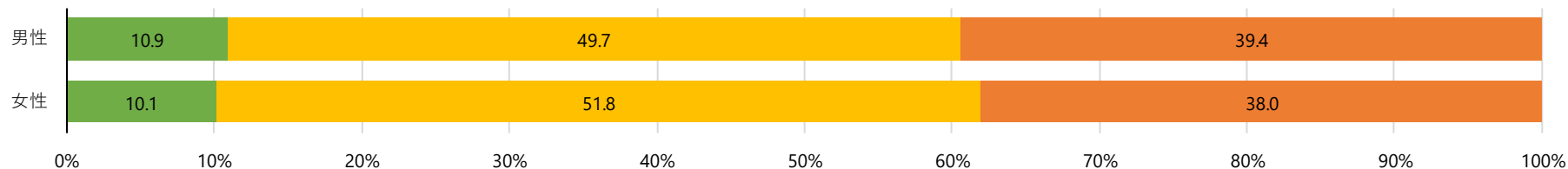
2.3.4. その他：ワード認知度

調査概要

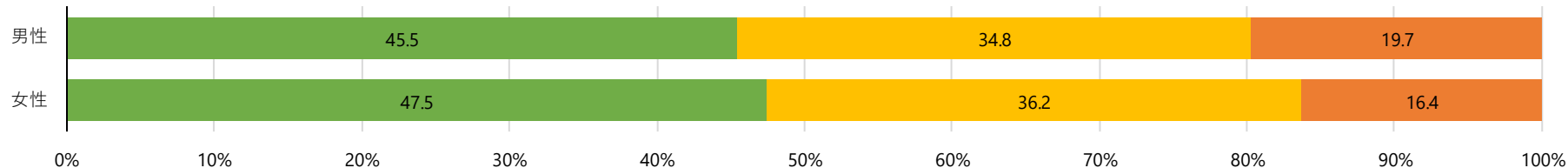
結果

■性別ごと④

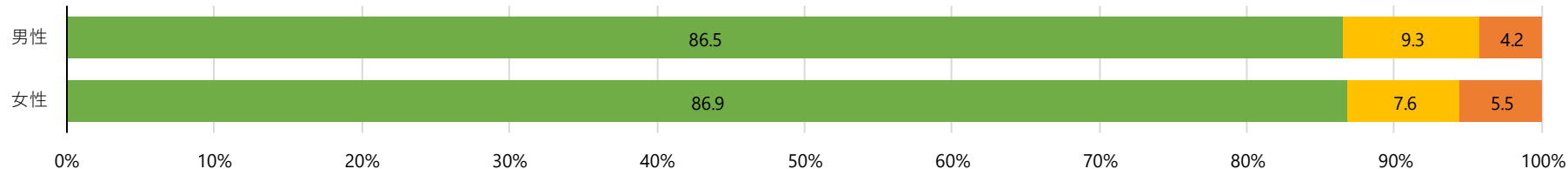
トランスジェンダー



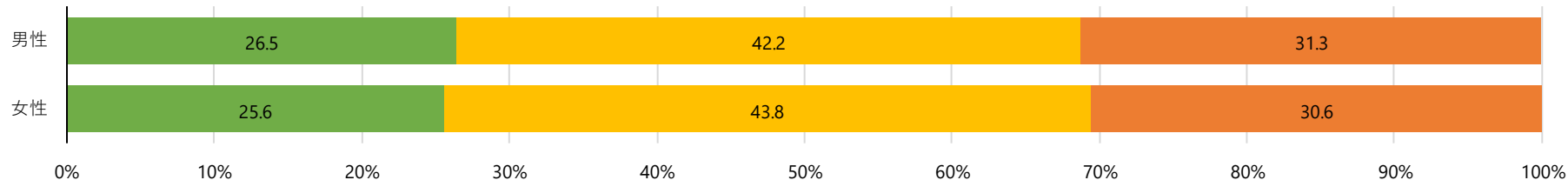
ノンバイナリー



クィア



性的同意



(n = 865)

■ 知らない ■ 聞いたことがある（意味は知らない） ■ 知っていて説明もできる

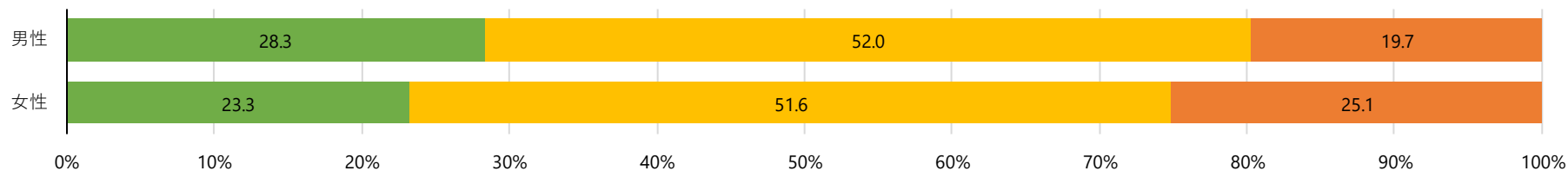
2.3.4. その他：ワード認知度

調査概要

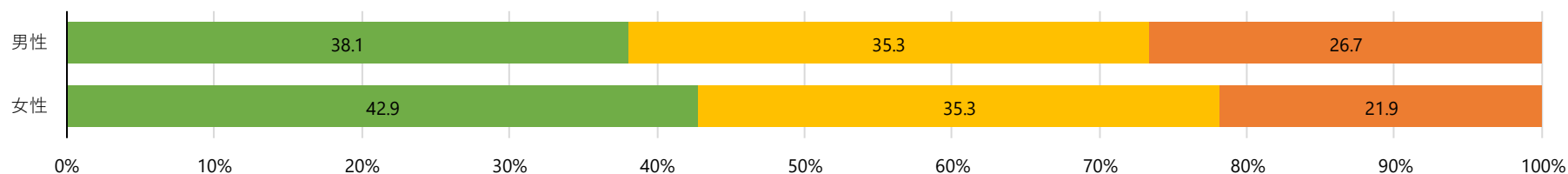
結果

■性別ごと⑤

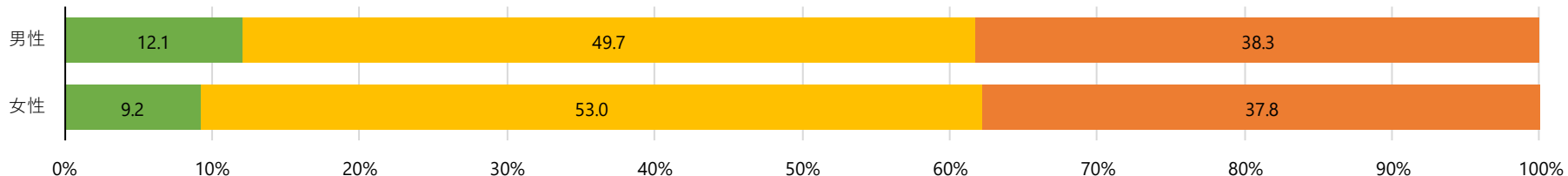
パートナーシップ制度



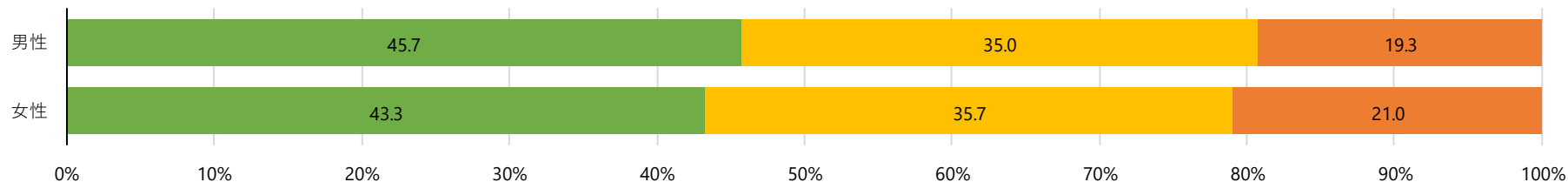
気候危機



SDGs



地球沸騰化



(n = 865)

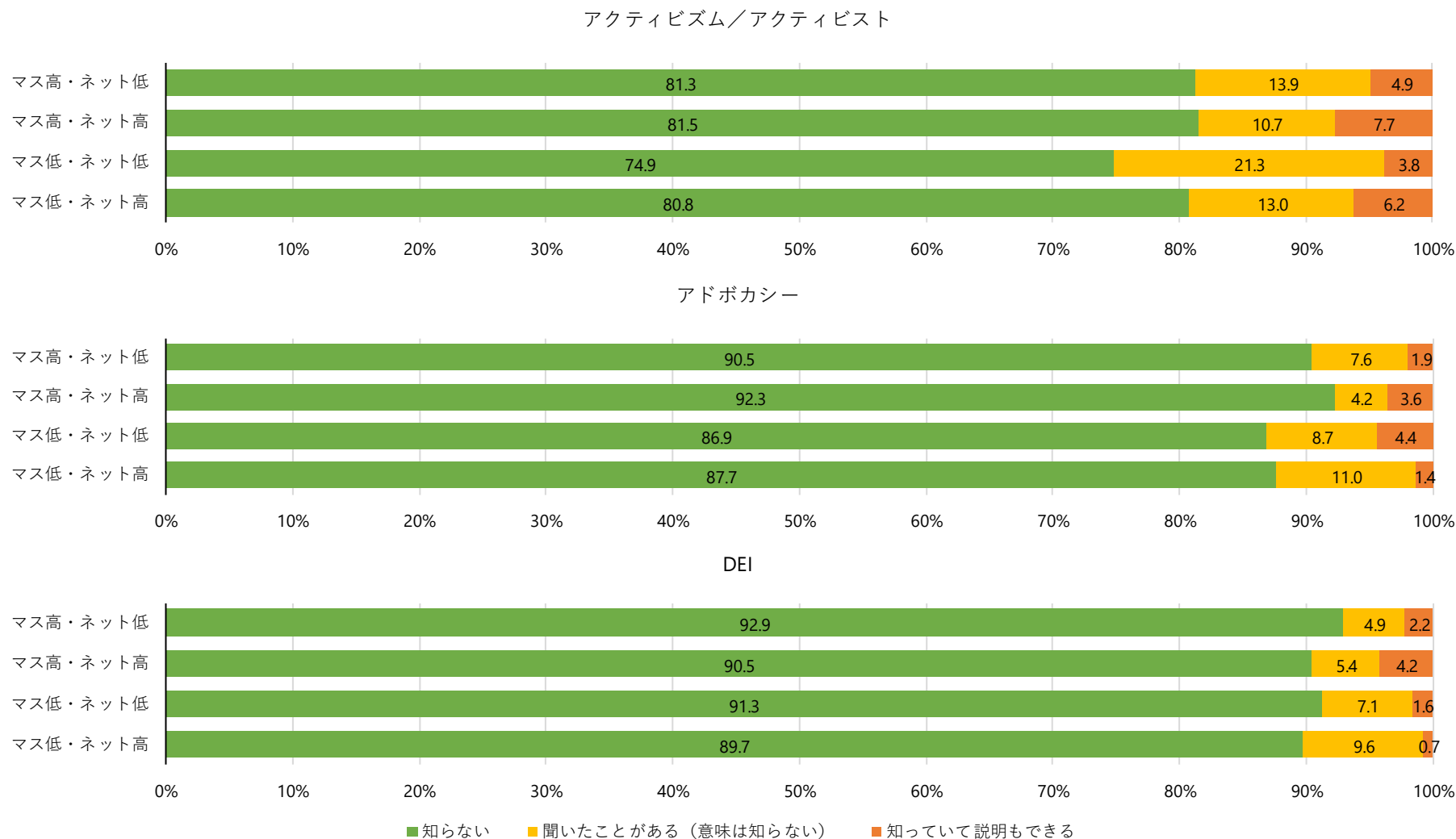
■ 知らない ■ 聞いたことがある（意味は知らない） ■ 知っていて説明もできる

2.3.4. その他：ワード認知度

調査概要

結果

■メディア情報信頼度のクラスターごと①



(n = 865)

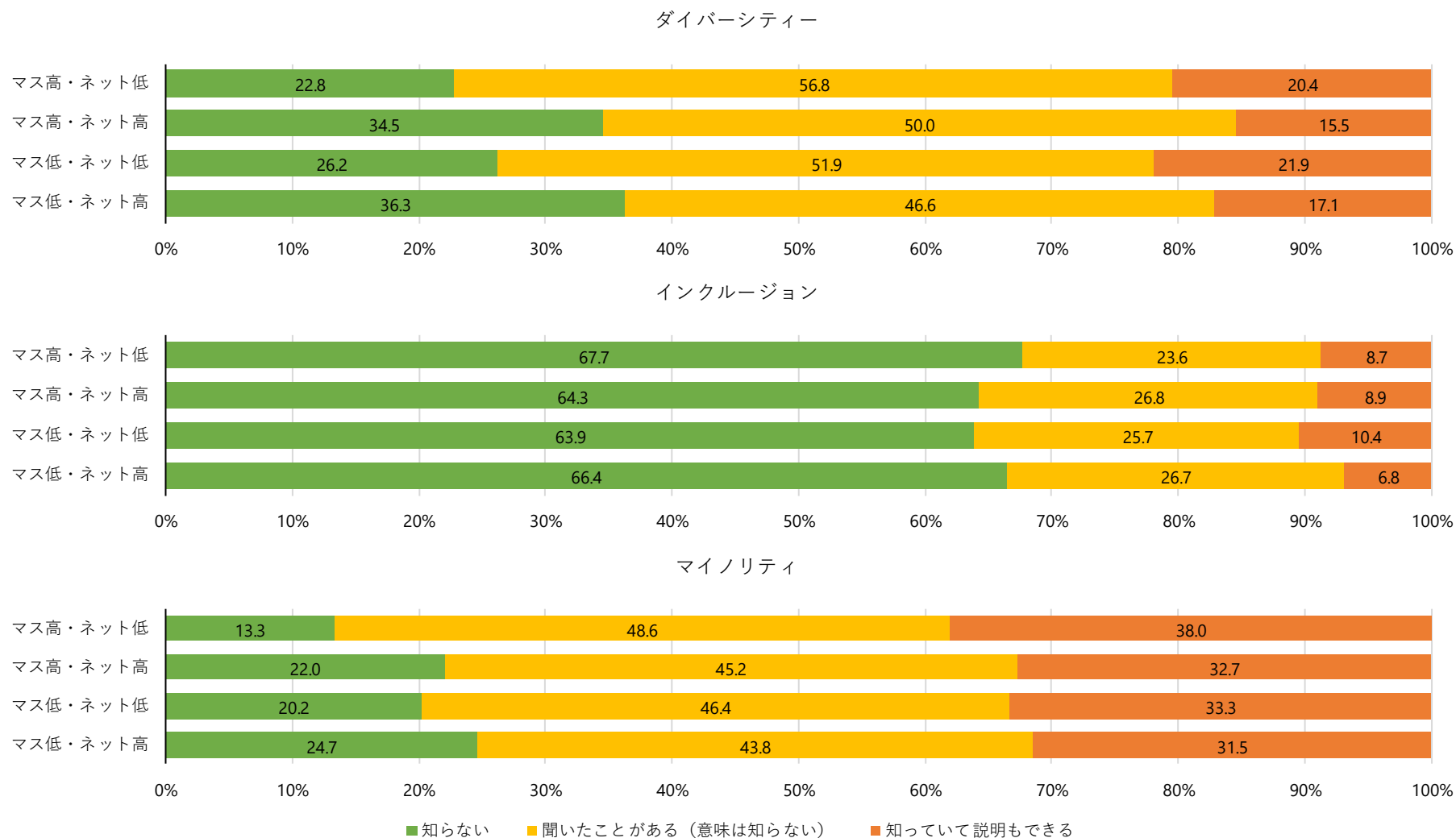
注) 「マス」はマスメディアの情報信頼度, 「ネット」はネット・SNSの情報信頼度を意味する。

2.3.4. その他：ワード認知度

調査概要

結果

■メディア情報信頼度のクラスターごと②



(n = 865)

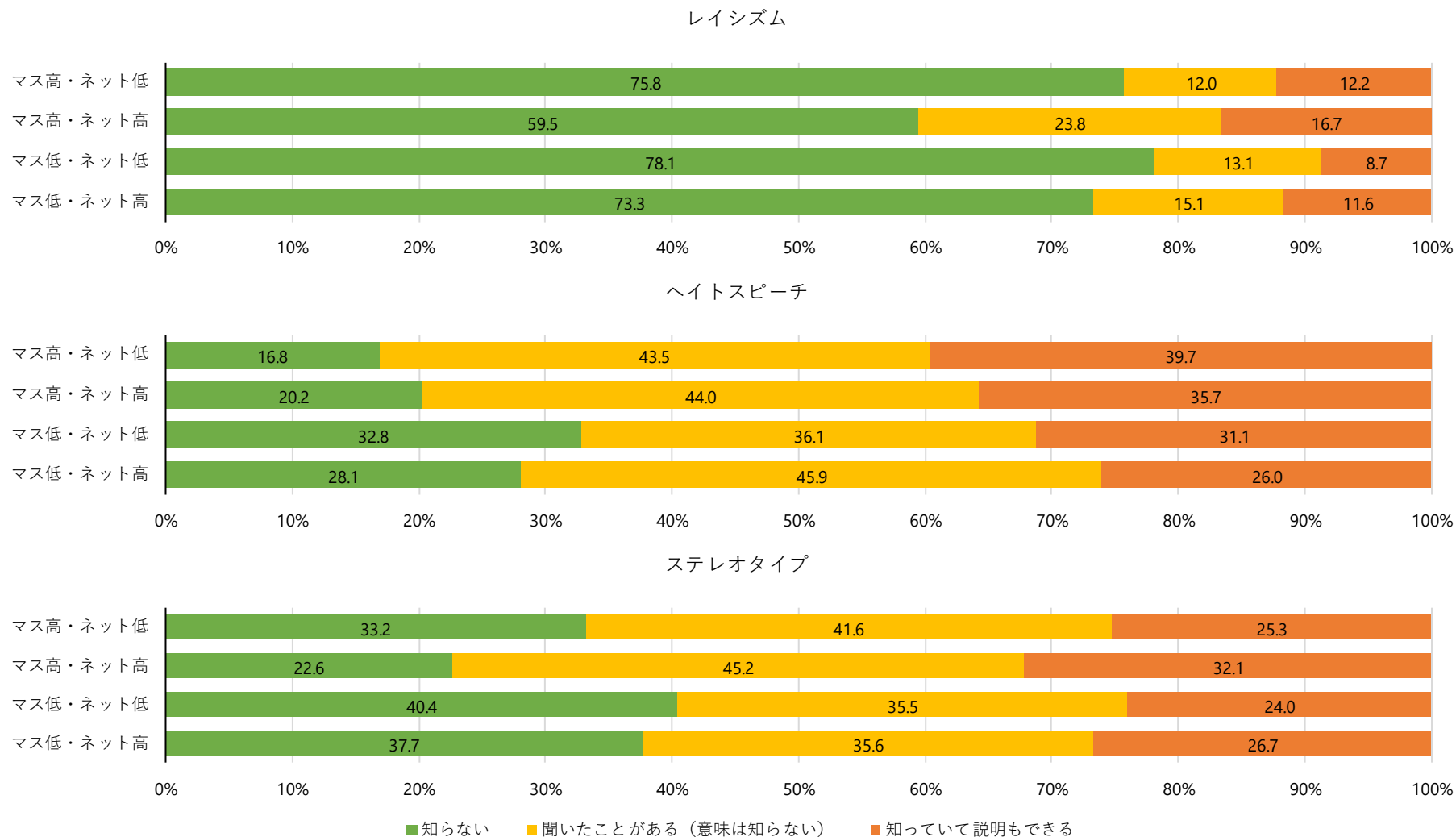
注) 「マス」はマスメディアの情報信頼度, 「ネット」はネット・SNSの情報信頼度を意味する。

2.3.4. その他：ワード認知度

調査概要

結果

■メディア情報信頼度のクラスターごと③



(n = 865)

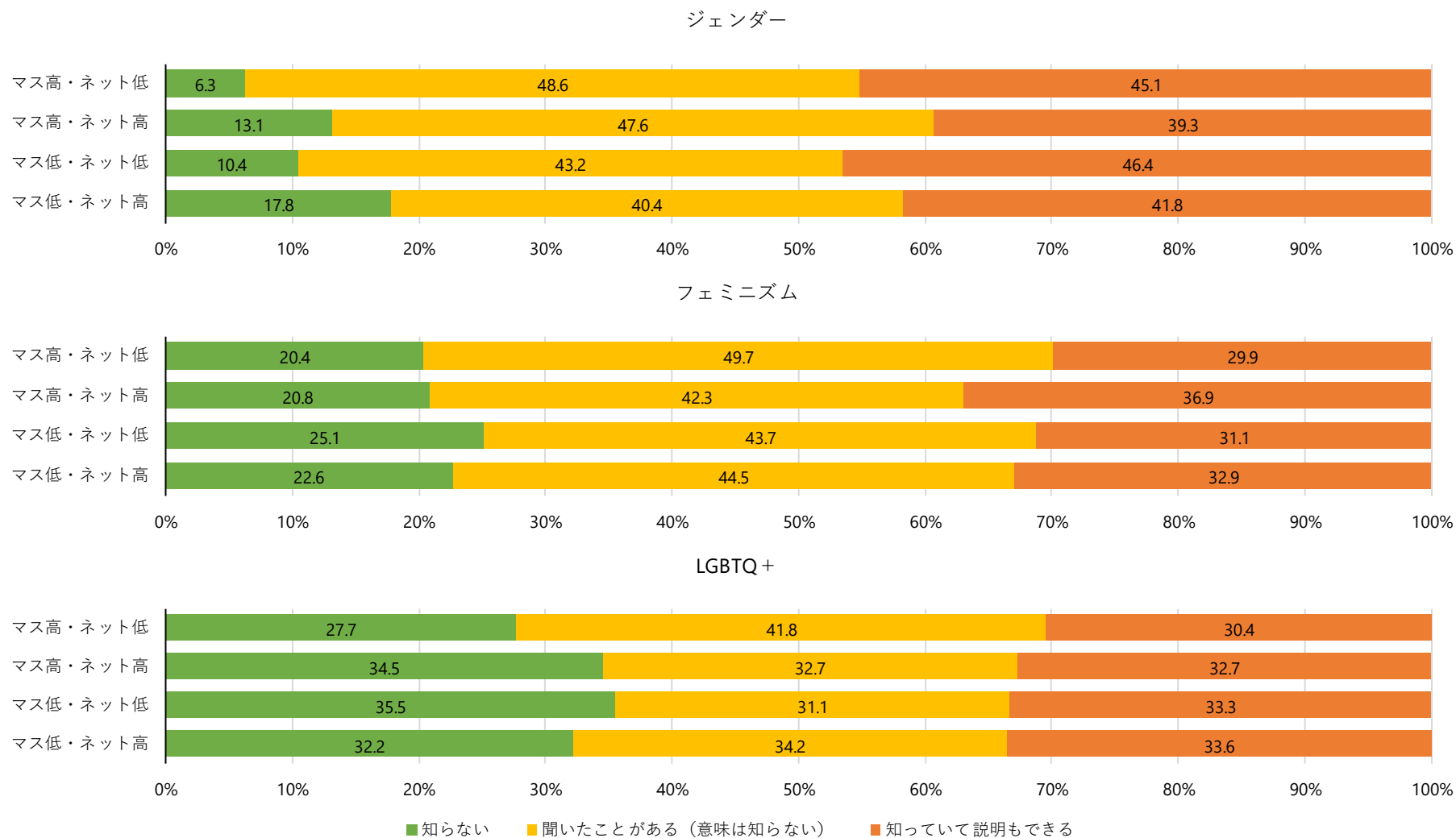
注) 「マス」はマスメディアの情報信頼度, 「ネット」はネット・SNSの情報信頼度を意味する。

2.3.4. その他：ワード認知度

調査概要

結果

■メディア情報信頼度のクラスターごと④



(n = 865)

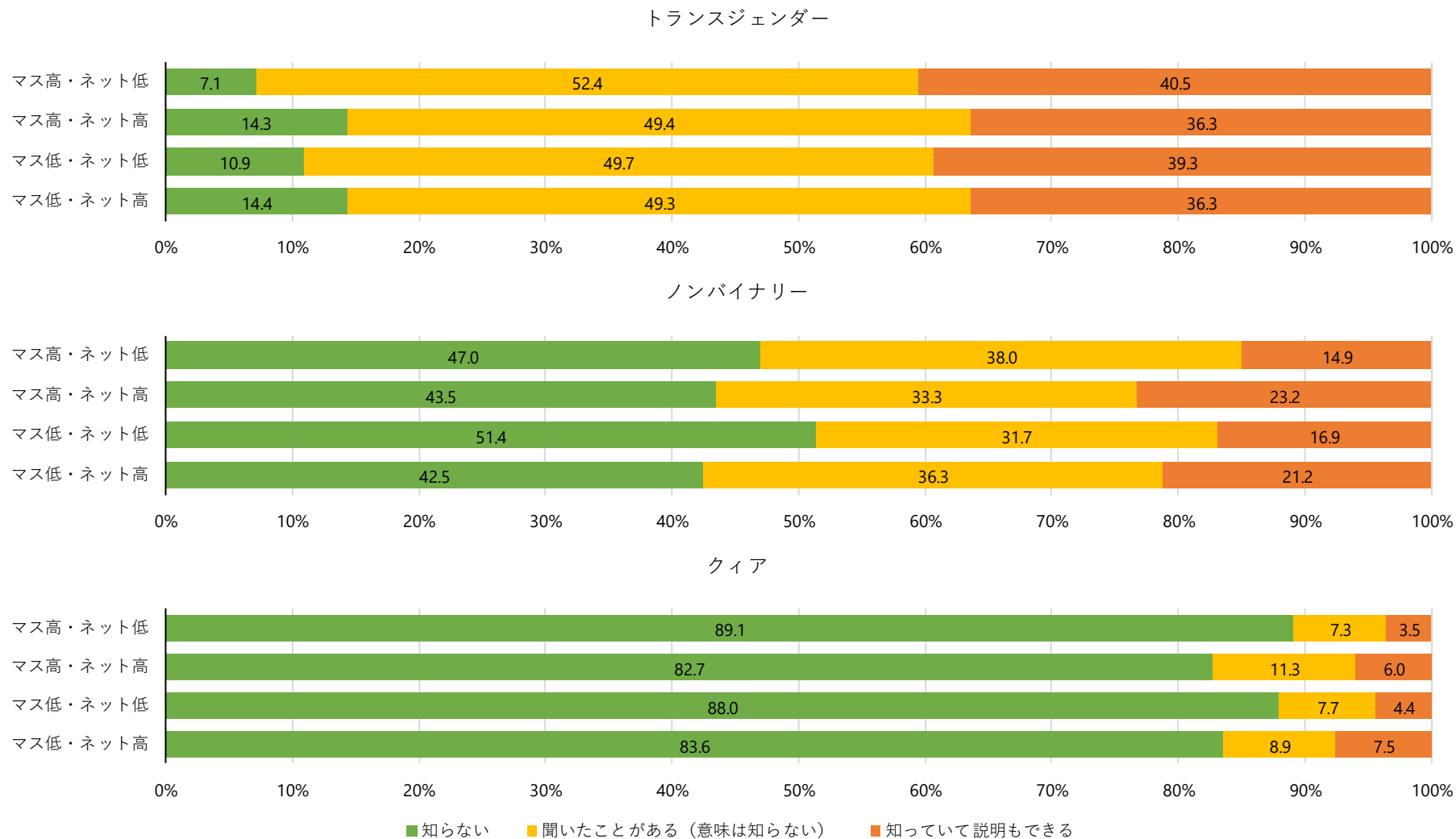
注) 「マス」はマスメディアの情報信頼度, 「ネット」はネット・SNSの情報信頼度を意味する。

2.3.4. その他：ワード認知度

調査概要

結果

■メディア情報信頼度のクラスターごと⑤



(n = 865)

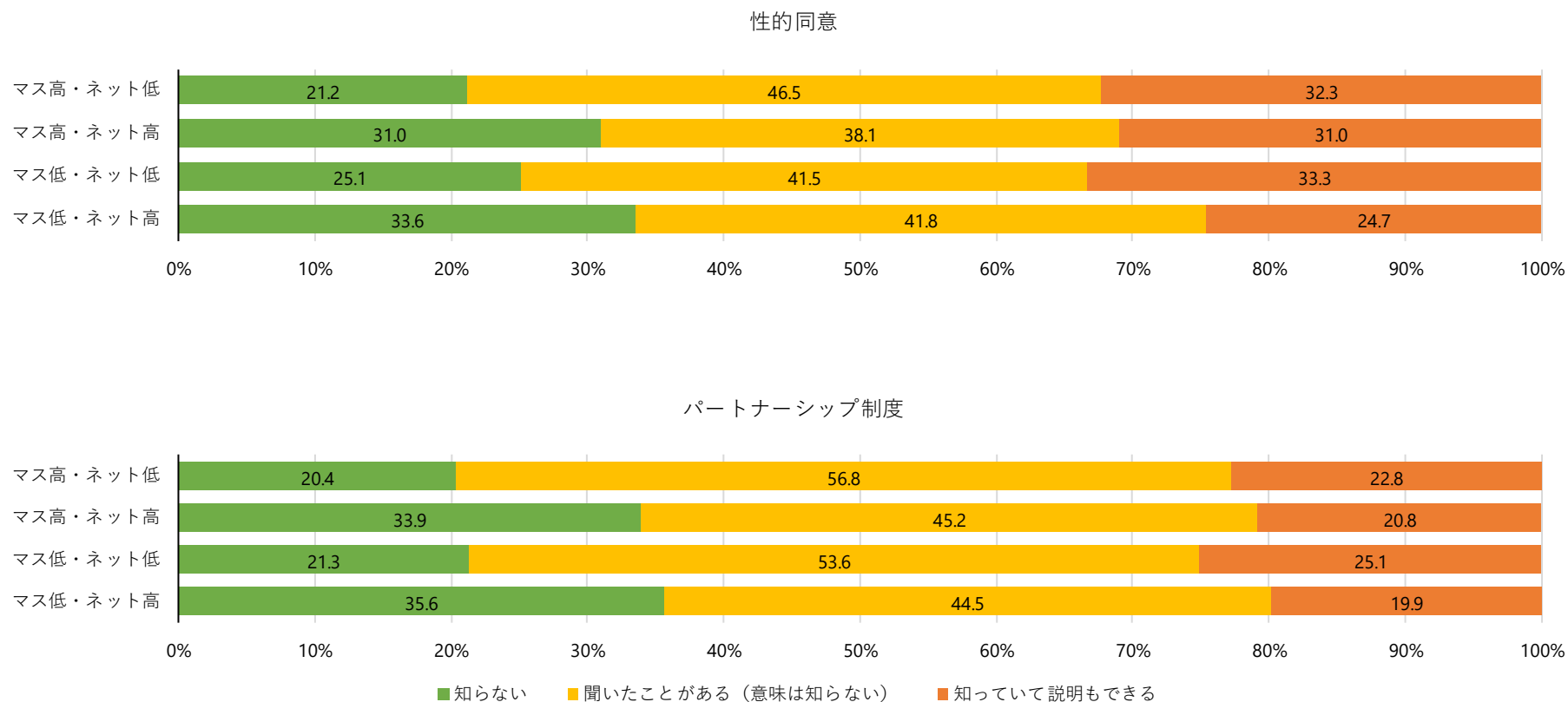
注) 「マス」はマスメディアの情報信頼度, 「ネット」はネット・SNSの情報信頼度を意味する。

2.3.4. その他：ワード認知度

調査概要

結果

■メディア情報信頼度のクラスターごと⑥



2.3.4. その他：ワード認知度

調査概要

結果

■メディア情報信頼度のクラスターごと⑦



(n = 865)

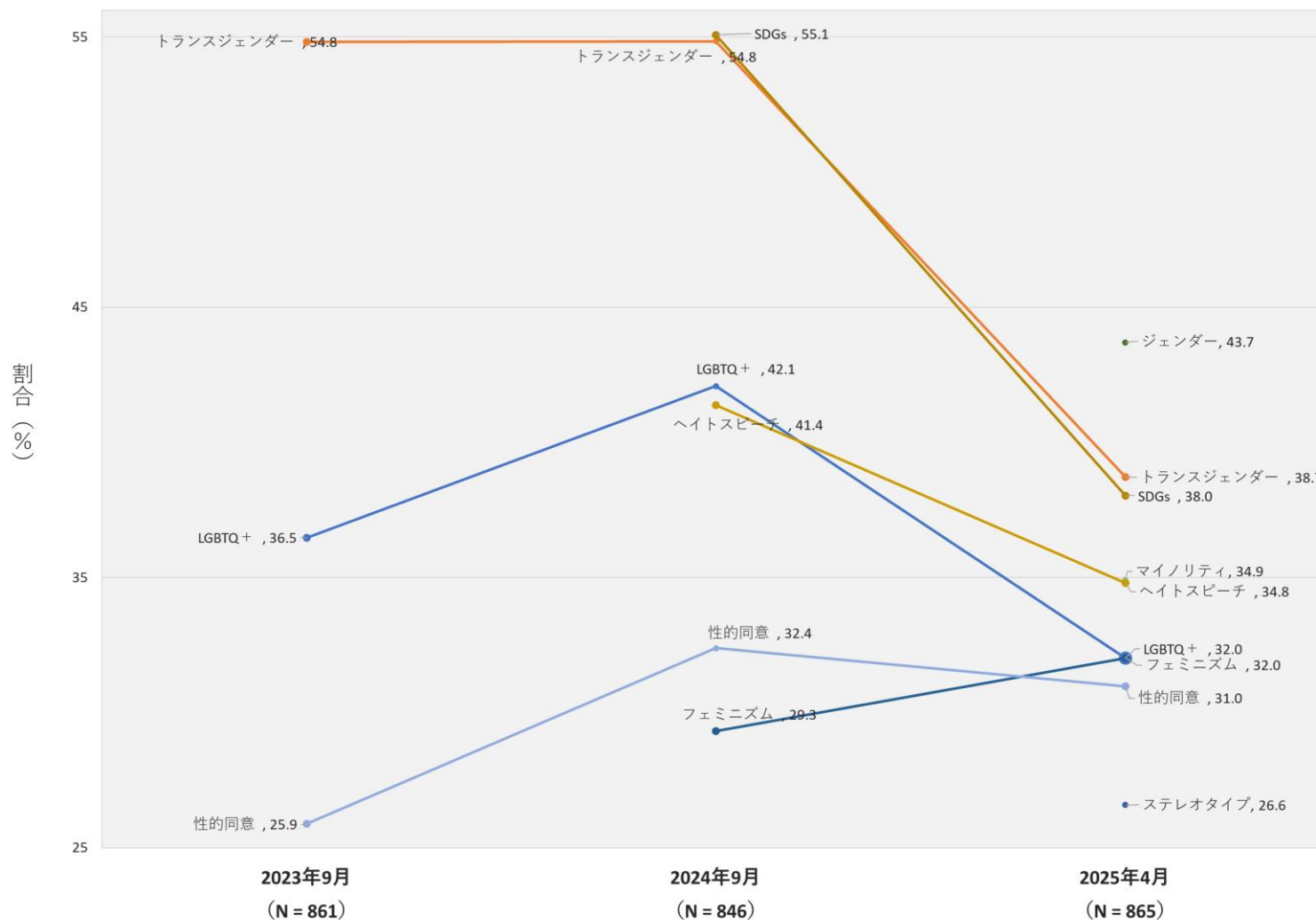
注) 「マス」はマスメディアの情報信頼度, 「ネット」はネット・SNSの情報信頼度を意味する。

2.3.4. その他：ワード認知度

調査概要

結果

■ワード認知度の推移①

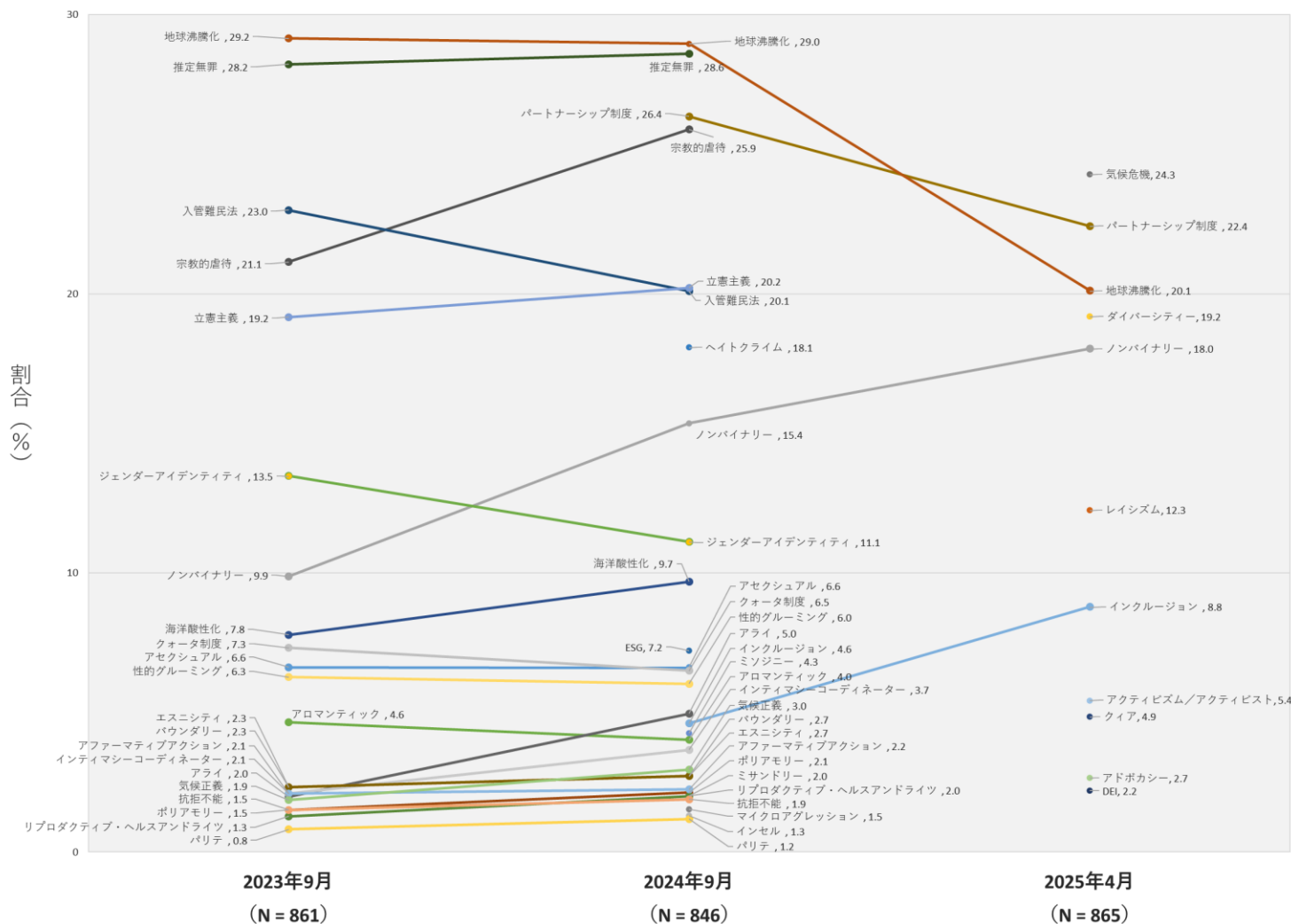


2.3.4. その他：ワード認知度

調査概要

結果

■ワード認知度の推移②



引用文献

- Diener, E. D., Emmons, R. A., Larsen, R. J., & Griffin, S. (1985). The satisfaction with life scale. *Journal of personality assessment*, 49(1), 71-75.
- Hughes, M. E., Waite, L. J., Hawkley, L. C., & Cacioppo, J. T. (2004). A short scale for measuring loneliness in large surveys: Results from two population-based studies. *Research on aging*, 26(6), 655-672.
- Igarashi, T. (2019). Development of the Japanese version of the three-item loneliness scale. *BMC psychology*, 7, 1-8.
- 村松 公美子 (2014). Patient Health Questionnaire (PHQ-9, PHQ-15) 日本語版および Generalized Anxiety Disorder-7 日本語版-up to date- 新潟青陵大学院臨床心理学研究, 7, 35-39.
- Muramatsu, K., Kamijima, K., Yoshida, M., Otsubo, T., Miyaoka, H., Muramatsu, Y., & Gejyo, F. (2007). The patient health questionnaire, Japanese version: validity according to the mini-international neuropsychiatric interview-plus. *Psychological reports*, 101(3), 952-960.
- 小塩 真司・阿部 晋吾 (2012). 日本語版 Ten Item Personality Inventory (TIPI-J) 作成の試み パーソナリティ研究, 21(1), 40-52.
- Spitzer, R. L., Kroenke, K., Williams, J. B., Patient Health Questionnaire Primary Care Study Group, & Patient Health Questionnaire Primary Care Study Group. (1999). Validation and utility of a self-report version of PRIME-MD: the PHQ primary care study. *Jama*, 282(18), 1737-1744.
- Spitzer, R. L., Kroenke, K., Williams, J. B., & Löwe, B. (2006). A brief measure for assessing generalized anxiety disorder: the GAD-7. *Archives of internal medicine*, 166(10), 1092-1097.
- 角野 善司 (1995). 人生に対する肯定的評価尺度の作成 (1) 日本教育心理学会総会発表論文集第37 回総会発表論文集, 95.

付録1：すべての心理尺度の記述統計量

変数名	α	平均値	中央値	標準偏差	分散	最小値	最大値
精神的健康							
抑うつ	.92	5.24	3.00	6.17	38.11	0.00	27.00
不安感	.93	4.46	2.00	5.35	28.58	0.00	21.00
孤独感	.84	1.63	1.33	0.65	0.42	1.00	3.00
人生満足感	.93	2.98	3.00	1.16	1.33	1.00	6.00
不公平感							
個人的不公平感	.84	1.40	1.00	0.60	0.36	1.00	3.00
社会的不公平感	.87	1.93	2.00	0.72	0.51	1.00	3.00
ビッグファイブ							
外向性		3.51	3.50	1.35	1.83	1.00	7.00
協調性		4.89	5.00	1.19	1.42	1.00	7.00
勤勉性		4.11	4.00	1.38	1.90	1.00	7.00
神経症傾向		4.03	4.00	1.36	1.84	1.00	7.00
開放性		3.67	4.00	1.27	1.62	1.00	7.00

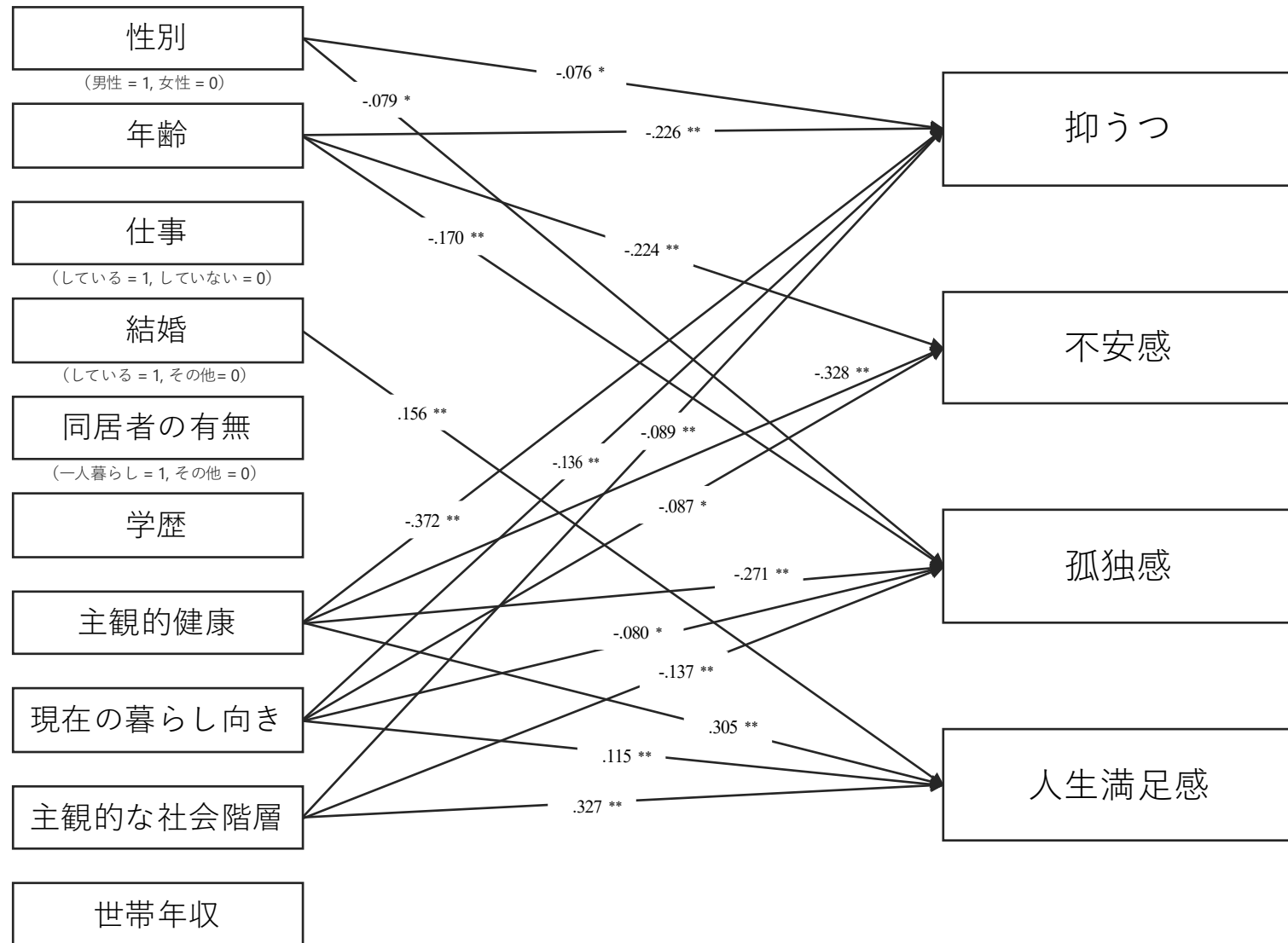
$n = 865$, 「抑うつ」「不安感」は合計値、それ以外は変数の平均値を算出。

付録2：すべての心理尺度の順位相関分析の結果 (スピアマンの順位相関分析)

変数名	平均値 (SD)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
1. 抑うつ	5.24 (6.17)	—										
2. 不安感	4.46 (5.35)	.80 **	—									
3. 孤独感	1.63 (0.65)	.63 **	.57 **	—								
4. 人生満足感	2.98 (1.16)	-.43 **	-.36 **	-.40 **	—							
5. 社会的不公平感	1.4 (0.6)	.58 **	.57 **	.61 **	-.31 **	—						
6. 個人的不公平感	1.93 (0.72)	.41 **	.39 **	.45 **	-.26 **	.46 **	—					
ビッグファイブ												
7. 外向性	3.51 (1.35)	-.25 **	-.23 **	-.35 **	.27 **	-.15 **	-.13 **	—				
8. 協調性	4.89 (1.19)	-.27 **	-.28 **	-.28 **	.13 **	-.25 **	-.06	.04	—			
9. 勤勉性	4.11 (1.38)	-.32 **	-.29 **	-.32 **	.31 **	-.18 **	-.11 **	.30 **	.40 **	—		
10. 神経症傾向	4.03 (1.36)	.48 **	.55 **	.40 **	-.32 **	.31 **	.21 **	-.30 **	-.40 **	-.51 **	—	
11. 開放性	3.67 (1.27)	-.15 **	-.12 **	-.13 **	.21 **	.02	-.04	.41 **	.03	.30 **	-.26 **	—

$n = 865$, ** $p < .01$, * $p < .05$

付録3：精神的健康に対する各属性変数の影響（SEM）

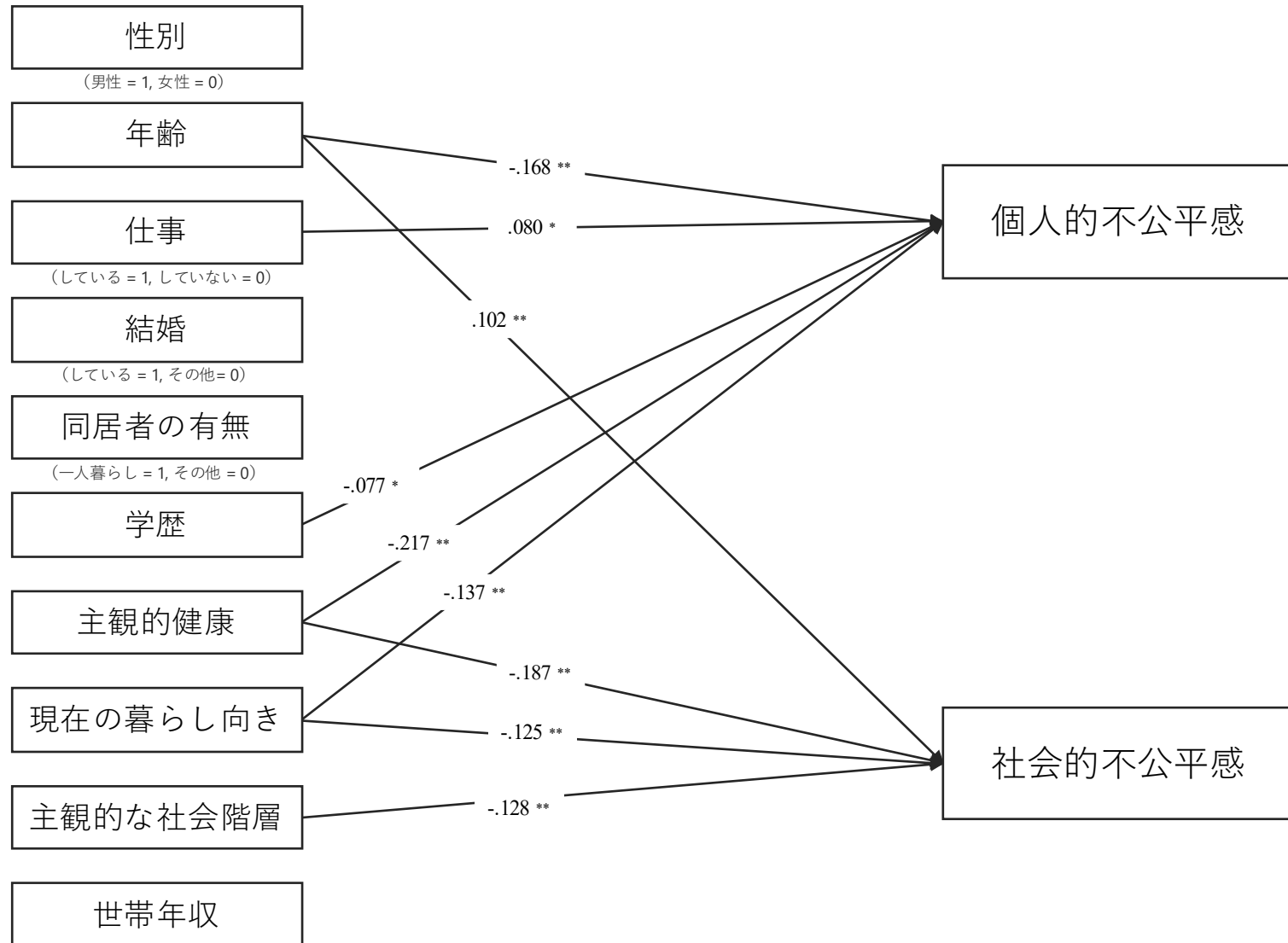


注1) 目的変数のすべての変数間に共分散を設定した。

注2) $n = 865$, ** $p < .01$, * $p < .05$

注3) 数値は標準化係数。有意なパスのみ表示。

付録4：不公平感に対する各属性変数の影響（SEM）



注1) 目的変数のすべての変数間に共分散を設定した。

注2) $n = 865$, $^{**}p < .01$, $^{*}p < .05$

注3) 数値は標準化係数。有意なパスのみ表示。

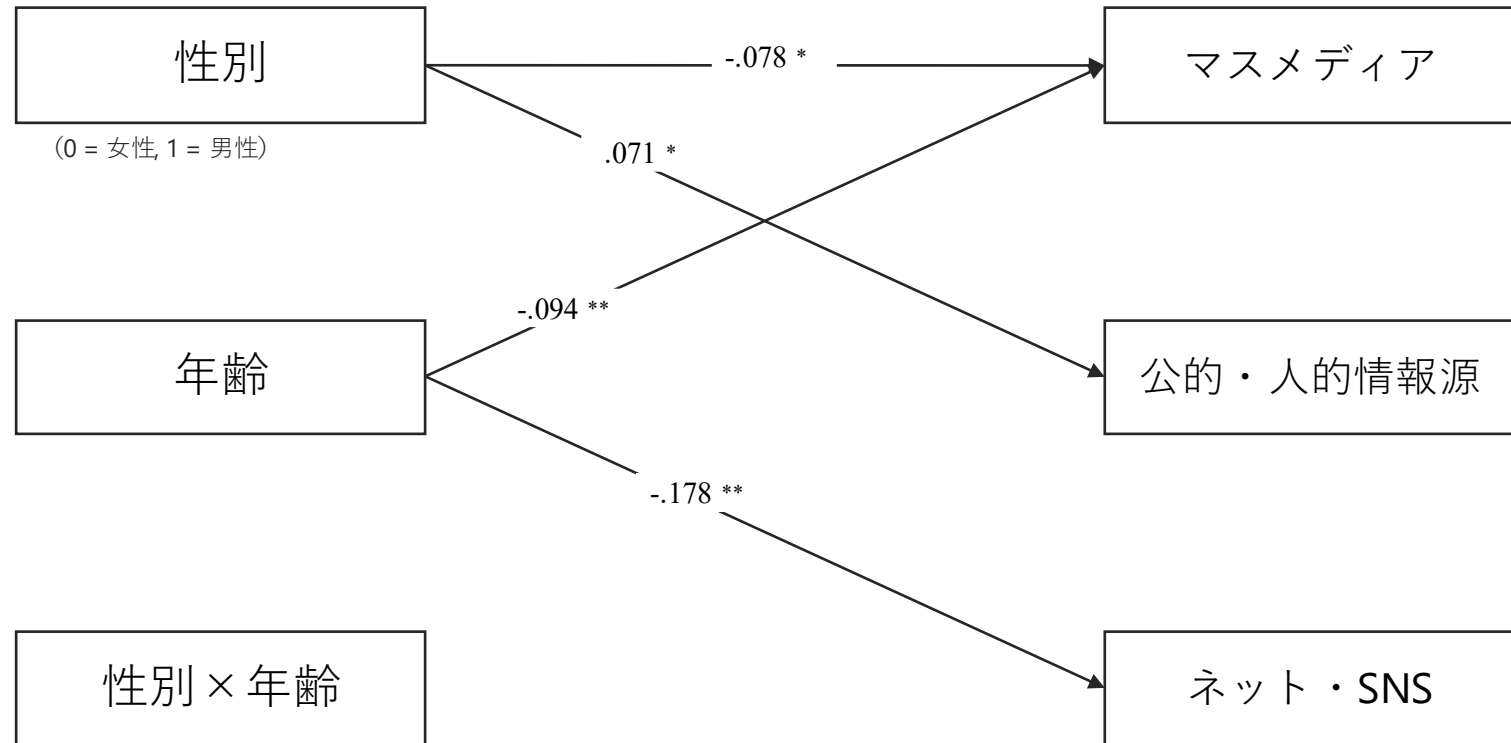
付録5：信頼するメディア情報の探索的因子分析の結果

	F1	F2	F3	共通性
F1. マスメディア ($\alpha=.88$)				
Q1 テレビ番組	.96	-.08	-.04	.79
Q2 新聞	.91	.08	-.21	.77
Q5 テレビCM	.55	.14	.23	.62
Q3 ニュースサイト	.55	.05	.33	.64
F2. 公的・人的情報源 ($\alpha=.82$)				
Q12 自治体からの情報	.08	.86	-.14	.72
Q11 企業からの情報	-.02	.85	.03	.74
Q10 有識者からの情報	.04	.65	.06	.51
Q8 友人・知人からの情報	-.06	.42	.27	.32
F3. ネット・SNS ($\alpha=.82$)				
Q4 SNS	-.05	-.07	.88	.69
Q7 インターネット上の口コミやコメン	-.18	.11	.83	.65
Q6 インターネット動画広告	.23	-.07	.65	.57
因子間相関				
	F1	F2	F3	
F1	—	.65	.50	
F2		—	.52	
F3			—	

CFI=.97, RMSEA=.09, AIC=269.40, BIC=412.29

最尤法、プロマックス回転

付録6：メディアの信頼度に対する性別と年齢の影響（SEM）



注1) 目的変数のすべての変数間に共分散を設定した。

注2) $n = 865$, $^{**}p < .01$, $^*p < .05$

注3) 数値は標準化係数。有意なパスのみ表示。